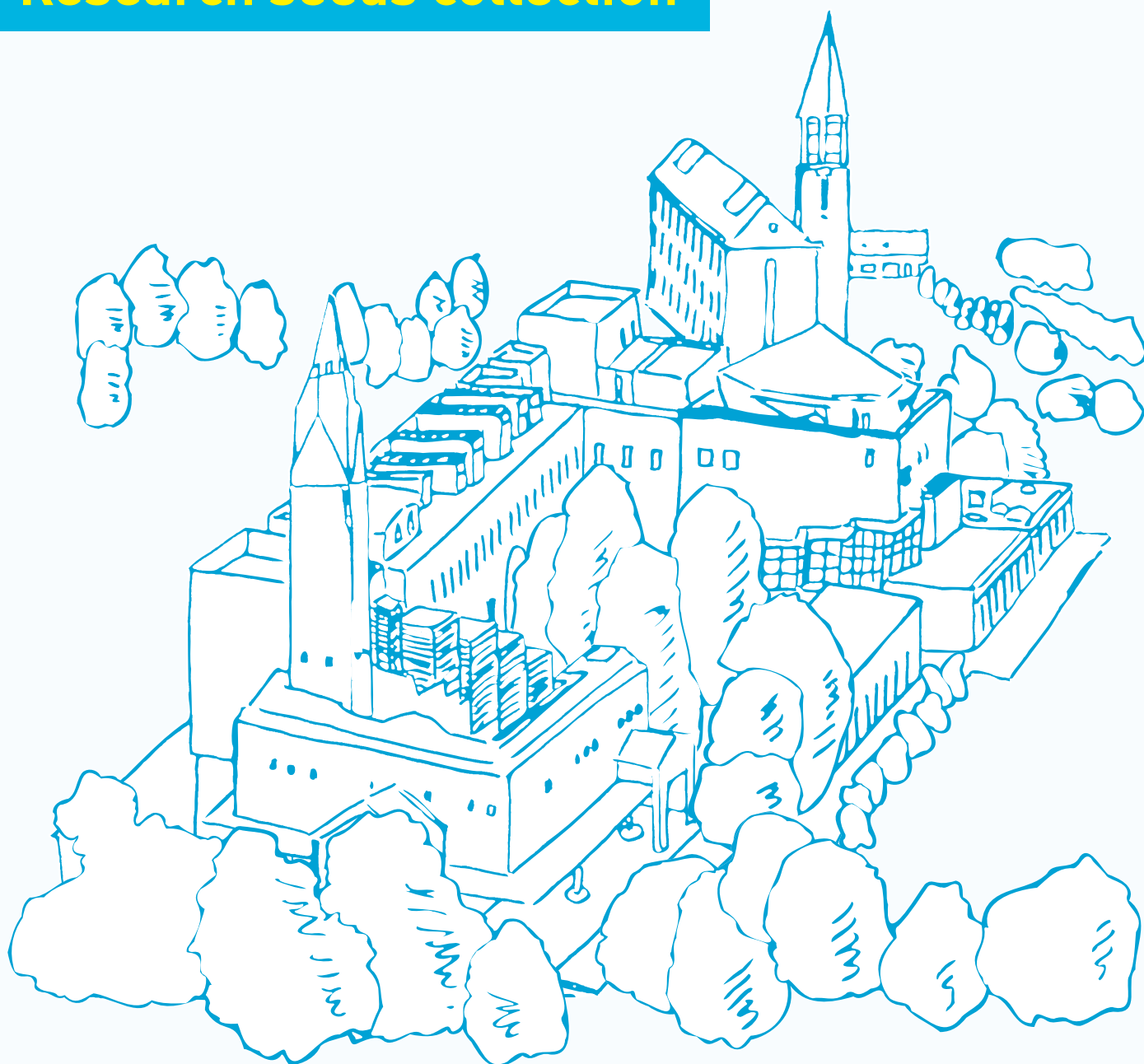


西武文理大学 研究シーズ集 2025

BUNRI
Research seeds collection



CONTENTS

目次

ごあいさつ 学長メッセージ	2
サービスイノベーションセンター(SIC)	4
産学官・地域の連携事業の事例紹介	6
研究機関としての学部の特徴	8
研究シーズ2025 研究シーズの見方	9

企業・経営支援

浅石 梨沙	新製品・サービス開発の原価計算・管理会計	10
金澤 良昭	マーケティング・コミュニケーション	11
甘泉 瑞応	サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム	11
張 森	組織における従業員のプロアクティブ行動の結果について	12
藤野 洋	中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGsの研究	12
船山 貴光	データの有効活用に関する研究	13
李 楊	小売業革新に関する実証分析	13

医療・福祉専門職支援

飯室 淳子	実習の看護学生の関わりが高齢者のQOLに及ぼす影響	14
井上 寛隆	小児看護学教育及び子育て支援に関する研究	15
影山 優子	介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する	15
神庭 純子	現代に活かすナイチンゲール看護論	16
小松 妙子	在宅看護・訪問看護の発展	16
坂田 徳生	ブレバレーション・処置後の遊びへの看護介入	17
祥雲 直樹	看護師が働き続ける環境の整備	17
佐藤 直子	組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験ー病棟再編に焦点をあててー	18
渋谷 寛美	看護技術習得支援の教材開発と実践	18
鈴木 浩美	外国人医療人材への支援プログラムの構築ー外国人技能実習制度の活用に向けてー	19
関根 みぎわ	がんサバイバー・家族支援の検討、地域共生型の健康と子育て支援	19
八田 史絵	指導看護師が新人看護師に感じる指導時のかかわりの苦悩	20
原田 瞳	精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス	20
日野 徳子	地域・在宅の場における医療・福祉・看護専門職の実践的ケアの検証	21
保坂 嘉成	LGBTQ+におけるHIV感染症やアディクションへの支援	21
森川 奈緒美	成人看護学教育、社会人基礎力育成に関する研究	22
大和 広美	看護教育・教育評価に関する研究	22

教育・スポーツ・生涯学習

加藤 三彦	スポーツマインドを育成する	23
神野 雄	親密な人間関係を求める心理、関係の維持と崩壊について	24
鈴木 政浩	英語授業学研究（学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化）、 4 技能の連動性と英語運用能力向上	24
瀬沼 文彰	現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究	25
土屋 進一	英語教育におけるエンゲージメントの実践と理論	25
牧野 充	日本語を通じて外国人と地域社会を繋ぐ	26
宮島 健次	ホスピタリティ教育— AI 時代に生き残る人とは	26

観光・まちづくり

伊東 林蔵	ドイツ企業史、西洋経済史	27
神田 八穂	観光人材育成におけるホスピタリティ教育の実現	28
富樫 文予	ホテルのハード・ソフト・ヒューマン	28
徳田 行延	産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する	29
中谷 勇介	産業連関表を用いた地域経済の課題解決	29
波湯 郁代	観光マーケティング、ライフスタイルと旅行者行動	30
望月 政志	地域資源を活用した地域振興に関する研究	30

子育て・障害者支援

石川 幸代	精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について	31
笠井 翔太	精神面の困難に直面した人への対話的支援	32
坂本 めぐみ	生涯を通じた女性の健康・こどもの食育に関する研究	32
櫻井 薫	妊娠～出産～育児期の母親の心理	33
藤田 則貴	障がい児・者領域、高齢者分野も含めた権利擁護について	33
茂手木 明美	子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康	34
渡部 加恵	女性と健康、産後ケア・子育て支援に関する研究	34

健康づくり

阿部 祐美子	サービス付き高齢者向け住宅入居者の口腔機能の支援	35
石井 可奈	高齢者の健康とそれにかかわる保健師の心身健康について	36
伊藤 千春	労働者や地域住民の健康維持増進に向けて	36
霜山 薫	人々の健康を支える健康診査、保健指導について	37
高橋 幸子	社会における将来を見据えた専門職（看護師）の活用	37

産学官連携の推進	38
共同研究等の推進／お問い合わせ先	39
INDEX 研究シーズ名前検索	40

西武文理大学は 地域貢献をさらに進めます

1999年に創立された西武文理大学は、昨年に創立25周年を迎え、この4月から新たな四半期へと歩みを進めています。開学以来、実践的な研究と教育をモットーとする本学は、これまでにいくつかの自治体や諸機関と協定を結ばせていただき、様々な協働事業を展開してきています。

具体的に記しますと、2016年の地元・狭山市との協定を嚆矢として、長野県飯山市・信州いいやま観光協会・フジすまいるファーム飯山との4者協定や埼玉県物産観光協会と協定を結び、2023年10月に入間市と、直後の同年11月に埼玉県秩父地域振興センターとも協定を結ばせていただきました。

入間市との協定に基づいて、昨年度には本学の学生たちが市長より直々に「入間市自治会DX推進委員」として任命されて、活動をさせていただきましたが、今年度も5名の学生が任命されています。自治会活動の担い手の方々の高齢化が課題となっている現状をお手伝いするのが任務です。

また、秩父地域に関しては、サービス経営学部の教員が中心となって、すでに三回の「ちちぶ地域デザインセミナー」を秩父地域振興センター（秩父市）を会場にして開催しています。また、皆野町にある「mahora稲穂山」の中に西武文理大学ちちぶ伝習館を設置しました。さらに本年6月6日には、皆野高校と高大連携を推進する協定を結ばせていただきました。これは、今年度をもって閉校となる皆野高校の生徒さんたちの最後の学びをできるかぎり充実させてやりたい、という校長先生のご希望にお応えすべく、本学の学生や教員がご協力するものです。

さらに、本年9月には、四回目の「ちちぶ地域デザインセミナー」として、知的財産について専門家の講演会を開催します。同時に、「mahora稲穂山」の美術館を会場にして「世界に通用する日本のグローバルデザイン展」も開催する予定です。

また毛呂山町とも、本年6月17日に連携協定を締結させていただきました。これは、毛呂山町の地域活



西武文理大学 学長 やまき かずひこ 八巻 和彦

性化事業の一環を、本学の学生が「焚き火とドッグラン」という催しによって担おうとするものですが、その予算は、学生たちがクラウドファンディングによって確保しています。

これまでも活動を展開してきた長野県飯山市においても、昨年、三回目のスタディツアーを実施しています。そして、本学の地元自治体である狭山市とは、SDGs(持続可能な開発目標)に精通するサービス経営

学部教授による研究の一環として、狭山商工会議所の協力のもと「SDGsに関するアンケート調査」を共同で実施し、その報告も兼ねてSDGsと脱炭素をテーマに「サーブスイノベーションセミナー」を昨年1月に共催で開催しました。併せて、狭山市制施行70周年を迎えた昨年には、70周年をお祝いする連携事業にも取り組み、さらに10月末には、本学園の中学・高校、そして大学と一緒にキャンパスで実施する初めての学園ハロウィンイベント「Bunri Hospitality HALLOWEEN」を共催していただき、たくさんの参加者を得て好評でした。今年も同様に、10月25・26日に第二回の「学園ハロウィンイベント」を狭山市に共催していただくことになっています。

以上のように産官学連携の活動を積み重ねながら創立26年目を迎えている本学は、その英語表記の「Bunri University of Hospitality」が明示しているように、日本におけるオンリーワンの〈ホスピタリティ教育の学府〉として、ホスピタリティ精神をもって教育と研究を遂行してきています。そして、その成果も着実に現れつつあります。

本学創立10周年の年に設立された看護学部では、教員が学生にホスピタリティ精神をもってしっかりと教育してきています。その結果、ホスピタリティ精神を身に付けた卒業生が医療現場などで模範的に活躍しており、高い評価を頂いています。看護学部の教員も自治体や地域のさまざまな委員にも委嘱されて活動しています。

先輩学部となるサービス経営学部からは、ホスピタリティ精神を身につけて日本のサービス産業の第一線で活躍する卒業生がすでに輩出されていますが、学部創立25周年を期して、今年4月から全面的なカリキュラム改革を実施しました。その目的は時代に即した学びを展開することに他なりません。改革の中心は、全ての分野においてアクティブ・ラーニング科目を大幅に増やして、学生たちをできる限り座学から解放する

ことです。また、幼い時から「叱られること」が少ない昨今の学生たちの中には、他の人と協働することが不得意で、社会人になったとたんに困難を覚えるという人も少なくないようですが、それを学びの段階から解消してもらうことを目指しています。さらに、AIが普及しつつある現代こそ、人と人との向き合っただけで支え合う能力の必要性が高まっていますが、本学ではそれを実行できる学生を育てたいと考えています。

アクティブ・ラーニングの実施に際しては、学内のみならず実社会での学びが必要となりますので、その際には皆様のご支援、ご協力をお願いしなければなりません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学には、SDGsや観光・産業、地域の保健・医療など、様々な分野で皆様の具体的なご要望にお応えできる教員が揃っています。また、名前に「ホスピタリティ」をもつ日本で唯一の大学として、本学では、これも名称が示す通りに武蔵の国の「西部」地域に対して、できるかぎりの貢献をすることは当然の責務と認識しています。

ですから皆様には、このシーズ集をご参考になさりながら、積極的にご要望をお寄せくださるようお願いいたします。その種子から大輪の花が咲き、そして大きな実を結ぶことになれば、本学にとってはこの上ない大きな喜びです。皆様のご遠慮ないお声がけを、学長として心よりお待ちしております。

経歴／学長プロフィール

1947年山梨県に生まれる。早稲田大学第一文学部哲学科を卒業した後、東京教育大学大学院修士課程を修了。引き続き同大学大学院博士課程に進み、1976年に同課程を中退して和歌山大学の教員となる。1990年に早稲田大学に移り、1992年に教授。2000年に京都大学より博士(文学)を授与される。2018年3月に早稲田大学を定年退職。この間に早稲田大学広報室長、早稲田中学高等学校校長等も務める。2018年4月に桐朋学園大学特任教授(2022年3月まで)および早稲田大学名誉教授となる。専門はヨーロッパ中世の哲学、とくに15世紀の思想家であるニコラウス・クザヌスおよび文明論。1986年より88年までドイツのトリアー大学に研究滞在、1998年より2000年までドイツのボン大学に研究滞在。著書に、『クザヌス 生きている中世』(ぶねうま舎2017年)、『Anregung und Übung』(Aschendorff Verlag, Deutschland, 2017年)、『クザヌスの思索のプリズム』(知泉書館2019年)等。

SIC》 サービスイノベーションセンター

サービスイノベーションセンター長ごあいさつ

西武文理大学サービスイノベーションセンター（SIC）は、産学官の連携や社会への貢献を目的に地域の知の拠点として開設しています。これまで本学の教育活動や教員の研究シーズの育成の支援を行いながら、地元自治体や関連機関との情報交換や学術交流を通じ、分野横断的な様々なプロジェクトの推進を支援してまいりました。

昨年度は、埼玉県商工会議所青年部や埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）と連携した本学教員による講座の実施をはじめ、一般社団法人埼玉県物産観光協会との連携協定にもとづく埼玉の魅力を発信するプロジェクトの推進、また長野県飯山市をフルドとした「スタディツアー（農業・福祉＋観光・商業関連の実習）」の実施、そして地元の様々なイベントへの参加や地域住民との交流を通じた社会貢献活動（多世代コミュニティ事業）などを行なって参りました。特に、昨年度は狭山市制施行 70 周年記念事業にも協力し、

記念イベントの開催や学生によるカウントダウン動画の提供などにも協力して参りました。

そして本学サービス経営学部では、今年度から新しい教育カリキュラムをスタートさせ、アクティブラーニング型の授業科目を充実しております。その授業を通じて、学生がこれまで以上に学外活動を活発に展開し、地元の自治体や企業、住民の皆様と多くの接点を持ちながら交流や連携事業、地域の課題解決などに取り組ませていただきます。

この研究シーズ集は、これらの本学の教員の研究や活動を紹介したものです。研究シーズ集が地域産業における新たなイノベーションや地域活性化につながるきっかけとなれば幸いです。



サービスイノベーションセンター
センター長

甘泉 瑞応

目的

本センターは、本学の産学官連携活動を推進し、ニュービジネスの創造支援と学内外の起業家育成の取組を通じて、本学の研究の発展を図るとともに、学園並びに地域のイノベーション人材の育成に寄与することを目的としています。

業務

本センターでは、次に掲げる業務を行っています。

- 【1】 産学官連携事業の企画と管理運営に関すること
- 【2】 起業家の育成とニュービジネスの創造支援に関すること
- 【3】 受託研究及び共同研究の調整と契約に関すること
- 【4】 知的財産の管理に関すること
- 【5】 研究活動の広報に関すること
- 【6】 イノベーション人材育成に係る高大連携に関すること
- 【7】 その他地域連携に関すること

サービスイノベーションセンターの活動事例

2024

01

飯山スタディツアー

令和6年11月1日(金)～3日(日)

このスタディツアーは、飯山市、信州いいやま観光局(以下「観光局」)、フジすまいるファーム飯山(以下、「すまいるファーム」)及び本学の4者連携協定に基づき実施しているもので、今回が3回目となります。

参加した学生は、サービス経営学部2年生から4年生の合計17名でした。

2泊3日のカリキュラムの1日目は地元にある新進漬物工場の見学や伝統工芸館での「彫金体験」、2日目はすまいるファームの木島作業所での野沢菜収穫作業と交流会、そして夜には収穫した野沢菜の醤油漬け体験、3日目は道の駅「花の駅 千曲川」にて店舗施設管理に関するフィールドワークを行いました。

02

埼玉県物産観光フォーラム

令和7年2月20日(木)

このフォーラムは埼玉県の物産及び観光の振興を目的に埼玉県物産観光協会が主催し、本学が後援して実施しました。今回は9名の中谷ゼミの学生が運営協力を行いました。当日は、受付や会場案内を担当し、併せてフォーラムの休憩時間には学生が茶娘姿となり、会場内の参加者に深蒸し茶・ほうじ茶・狭山紅茶の振る舞いとお茶の販売を行いました。

また、中谷教授と学生の代表が「埼玉魅力発信プロジェクト」と題して活動報告を行いました。



狭山市市制施行70周年記念事業

さい さやま70祭

令和6年12月1日(土)

狭山市市民交流センターにおいて本学と東京家政大学の共催による「さやま70祭」を開催しました。内容は、両大学の特色を生かしたブース出展とプロジェクションマッピングと動画を組み合わせた映像投影の2本立てでした。

本学からは、中谷教授が担当する総合演習Ⅰの受講生と中谷ゼミの学生総勢20名が参加しました。当日は、全体運営をはじめ、「さやまの謎解き」「てづくりキャンドル」「お茶のスライム」の3つのブースやお茶処を担当しました。

また、映像投影では、両大学の学生が市内で活躍する12人の方々取材した30分弱の画像とプロジェクションマッピングを組み合わせ、狭山市制施行70周年をお祝いする映像を編集し、オープニングとエンディングで上映しました。



100日前カウントダウン

令和6年3月23日(土)～7月1日(月)100日間

本学をはじめ、東京家政大学、武蔵野学院大学、武蔵野短期大学の4大学が協力して、市制施行記念日(2024年7月1日)の100日前から狭山市の公式SNSでカウントダウンの画像を配信しました。本学は、100日のうち33日分の画像を担当し、八巻学長のメッセージと学生たちの画像を配信しました。学生たちは授業やゼミ・クラブ活動などの時間を利用し市内の様々な場所で撮影した70周年のお祝いやこれからの狭山市へのメッセージで70周年を盛り上げました。



産学官・地域の連携事業の事例紹介

企業・経営支援

サービス経営学部 教授 藤野 洋

授業やゼミ活動を通しての地域貢献

サービス経営学部では、地域貢献事業の一環として10月に「アントレプレナーシップ」の授業で、キャリアの選択肢としての起業に関する学びの場として公開講座「ケーススタディからみる女性の起業とその意義」を開催しました。株式会社日本政策金融公庫総合研究所の主席研究員に「女性の起業と起業への関心」との演題で、その次に狭山茶ブランド「Tea-Rex」を運営する合同会社

ティーレックスの代表／CEOである狭山市出身の女性経営者に「合同会社ティーレックス 狭山での起業事例」との演題で、それぞれご講演いただきました。



医療・福祉専門職支援

看護学部 教授 小松 妙子

教育・研究を実践につなぎ、地域の保健医療・福祉ケアの質向上へ

サービス経営学部及び看護学部では、教育や研究の成果を保健医療・福祉専門職の実践活動の質の向上に役立ててもらうため、専門職対象の公開講座や研修会の開催、地域の保健医療機関や看護協会等への講師派遣、近隣市町村の各種審議会委員としての参画を積極的に行っています。

各教員が専門性を発揮して、地域のニーズに

応じて様々な企業や訪問看護事業所等の地域活動の発展・活性化を支援しています。SDGsフォーラムの開催、看護管理者コース・看護教員養成講座・実習指導者講習会等の講師、臨床看護研究の支援、保健医療福祉職との協働研究への参画を通じて、地域の保健医療・福祉ケアの質向上に貢献しています。

教育・スポーツ・生涯学習

サービス経営学部 教授 加藤 三彦

スポーツ・コミュニティ・センターにおける活動

スポーツ・コミュニティ・センター（SCC）では、様々な目的のもと、事業・活動を行っています。特に、指定強化部の強化事業、社会貢献活動に力を入れて活動しています。

新設された男子サッカー部も、指定強化部（男子バスケットボール部・女子ラクロス部）の仲間に入り、活躍しています。今年度は、女子サッカー部も新設される予定です。学園総合グラウンドは、地域交流・社会貢献の場として利用されています。

SCCでは、学生・教員によるスポーツ教室を開講しています。狭山市教育委員会と女子ラクロス部による、小学生ラクロス体験教室を今年も開催します。

これからも、本学の学生・教員が、地域の子供たちに、スポーツの楽しさ・フェアプレイの心と行動などを教育・指導していきます。



ラクロス体験教室の様子



本学が会場・サッカーの公式試合開催

学生が創り出す新しい「体験」型ストーリー「サヤマ de シネマ」

今年で6年目の産学官連携映画上映会「サヤマ de シネマ」。私たちが目指すのはクラシカルな映画上映会ではない。映画はスマホで見ることのできる時代になっている。若者はデジタル世界とアナログな世界を自由に行き来しながら、デジタルで作り上げるイメージ世界と五感で感じるリアルなアナログ体験をマッチングさせながら新しい感性を紡ぎだしている。私たちがこだわるのはこ

の上映会を市民会館でやること。小さな観光地をつくり、映画でみんなが成長できる場を創ること。こうしたビジョンをもって今年も取り組んでいく。



子育てイベントの支援・障害を持つ方々の就労移行支援への参画

子育て支援では、埼玉県内・県外の様々な地域で楽しく活動を行っています。子育て中のママ・パパへの健康講座、絵本の読み聞かせと赤ちゃん体操やママのリラクゼーション、絵本カフェなどのイベントの講師や運営協力を行っています。また県内の、障害をお持ちの方々に対し就労継続支援や放課後等デイサービスを提供する施設にて、教育支援や提案などを行っています。

子育て・障害者支援には、地域や施設職員の皆様の熱い想いがあります。私たちはその想いを大切に、協働して

支援に取り組みたいと考えています。



県外施設での赤ちゃん和妈妈との講座
(小松市空とこども絵本館)

安全で健康な地域づくり

本学では2013年度より狭山市のまちづくり推進事業の一環として、学生や教職員が地域の関係団体と連携した地域貢献活動を行ってきました。

2024年度は狭山市奥富公民館にて、小学生と保護者を対象とした「親子防災体験ツアー」に参加しました。サービス経営学部・看護学部の学生が子どもたちにわかりやすく、「災害に遭った時の対応」「防災倉庫の中身」「非常食の作り方」「備

えておきたいもの」について、クイズを交えながら説明しました。今後も地域に貢献できるような活動を継続していきたいと思えます。



共創拠点を組織し
バックキャストによる
地域課題解決と
知識集約型社会の形成



サービス経営学部 学部長 徳田 行延

地域の強みを生かした新産業・新事業が創出される内発型の発展、事業継承のための新しいビジネスの創出や地域の雇用の拡大は、バックキャストによるイノベーションに資する共創拠点を大学が民間企業、地方自治体等とパートナーシップを組み、実行することが求められています。デジタルサービス化された経済社会において地域のボトムアップの取組みの展開としては、モノづくりを繋ぐサービス、地域を繋ぐサービス、観光 DX サービスなどを整備することで、サービス・製品開発、高度医療、ソフトウェア開発、アニメ産業、教育事業分野などでの雇用が創出されています。現代の地域イノベーションクラスターは、かつてのシリコンバレーモデルや大企業の量産工場の地域展開による産業集積の創出だけではなく、歴史的に地域にもたらされてきた文化と Z 世代や α 世代のデジタルカルチャー知財を融合させて地域能力を高めることであり、そのための事業事案やチャンスは無限にあります。例えば、大企業ではコストが合わず放置されていく利益の小さなソーシャルビジネス、女性キャリアのリ・デザイン、地域公共施設の業務サービスの立て直しや、新しいアイデアでの事業継承などです。

本学部では、学内に「未来起点型」課題解決法人を設立し、本学 OBOG と現役学生による起案実施体制を整える準備をしています。学生起業家を育成し、地域企業に蓄えられた実践知と若者の感性を融合させることで新しい産業創出を実現したいと思料しています。

地域と共に歩み
看護の知と実践を通して
地域の健康づくりに
貢献します



看護学部 学部長 神庭 純子

看護学部は、医療におけるホスピタリティ教育を追究する学部として 2009 年 4 月に誕生しました。2025 年 4 月で開設 17 年目となり、今日までに 13 期生 1057 名の卒業生を看護師・保健師として保健医療福祉の場に送り出しています。

看護学部の教育・研究機関としての特徴は、ホスピタリティを基盤とした実践力を身につけた看護専門職の育成、そして、地域の看護実践の質の向上、看護学の発展への寄与、さらには地域の健康生活の実現に向けた積極的な支援を行うことをその使命としていることにあります。

看護学部の教員はそれぞれの専門性を背景に、子育て支援、成人期の健康支援、高齢者支援、メンタルヘルス、家族支援、専門職支援など、多様な研究テーマを追究していますので、健康社会を実現するために多様な形で連携できるのではないかと思います。例えば、地域の健康課題を明らかにするための調査、調査結果の分析から地域課題を見出すプロセスでの協働、明らかになった地域課題をどのように解決していくかという企画への参画、そして解決の一つの方策としての健康づくり講座で様々な対象やテーマに応じてその講師を担うなど、様々なニーズにそれぞれの専門性を活かして応えることができると考えています。

看護学部では学部教員が協働・連携して、地域の健康づくりの支援や、看護職者の実践及び研究活動の支援を行うことにより、地域にとって欠くことのできないパートナーとして共に成長・発展することを目指しています。

これからも地域と共に歩み、看護の知と実践を通して地域の健康社会の実現に少しでもお役に立てればと願っておりますので、関心のある内容やテーマがございましたら、どうぞお気軽にお問い合せください。

研究機関としての学部の特徴

研究シーズ 2025

研究シーズの見方

6つの研究カテゴリ
に分類しています

マーケティング・コミュニケーション

金澤 良昭
KANAZAWA, Yoshiaki

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

マーケティング 広報
マーケティング・コミュニケーション オウンドメディア
広告

相談に応じられる関連分野

- Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

プロフィール

法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関係の広告、広報の実務に従事後、大学教員となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

研究・活動の内容

研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通して企業や商品に関するコミュニケーションを行っています。こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといいます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています（ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます）。

オウンドメディア（自社メディア）といわれるブログWebサイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価について探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでおります。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析をしておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム

甘泉 瑞応
KANSEN, Mizuo

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

価値共創 地域活性化
サービス・マネジメント ベンチャー企業育成支援
サービス・イノベーション

相談に応じられる関連分野

- 経営環境の変化に対応する新しいサービスのデザイン
- イノベーションを起こす人材の育成
- 中小企業の経営支援や事業計画の策定支援

プロフィール

上智大学法学部卒、富士銀行入行、会津大学大学院博士後期課程単位取得後退学・博士（コンピュータ理工学）、東北大学大学院博士後期課程単位取得後退学、会津大学 SGU 推進室元室長、本学 SIC センター長。中小企業診断士。

産業界・地域へのメッセージ

地域におけるサービスのイノベーションや人材育成支援。

研究・活動の内容

持続的に成長を遂げているサービス企業がその変革期においてどのようにして事業システムを再構築しているのか、その設計思想を様々なアプローチから分析し、そのメカニズムをモデル化していく研究を行っています。具体的には、いくつかの企業の積極的な取り組みを調査し、その企業が直面する様々な困難を乗り越えるためにどのような意思決定を行ない、どのようなプロセスを経てイノベーションや体質強化をしているのか、そしてその先、どのようなゴールを目指そうとしているのかについての調査研究を行っています。

モノからコトへのパラダイムシフトが浸透しています。また、IoT・ビッグデータ・AI活用の進化には目覚ましいものがあります。さらに、昨今のコロナ禍において消費者の意識や生活様式も大きく変化しています。このような先行きが読めない不確実性の高い環境において、企業は、脅威を機会に転換すべく、経営資源を見つめ直し、再構築を行い、ステークホルダーとも新たな視点で関係づくりをしていく必要があります。そして、環境に対応する新しいサービスのあり方を考え、デザインし、イノベーションを起こす人材を育成していくこともますます必要だと考えています。

研究に関連する
キーワードです

研究・活動の内容
を説明しています

相談に応じられる関連分野、
略歴や所属学会、産業界・地域へのメッセージをまとめています

企業・ 経営支援

新製品・サービス開発の原価計算・管理会計

浅石 梨沙

ASAISHI, Risa

サービス経営学部 サービス経営学科 准教授

キーワード

製品・サービス原価計算

利益管理

コスト・マネジメント

アメーバ経営

原価企画

相談に応じられる関連分野

- 新製品・サービス開発にともなう収益・原価管理
- 中長期利益計画の策定と実行
- 管理会計システムを活用した事業承継の円滑化

プロフィール

早稲田大学政治経済学部卒、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了、博士（商学）。日本会計研究学会、日本原価計算研究学会、日本管理会計学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

地元企業の持続的発展に貢献できれば幸いです。

研究・活動の内容

製造・サービス業における原価計算・管理会計を研究分野として、新製品・サービス開発における原価計算・管理会計をメインテーマとした研究をしています。近年では特に、「サービタイゼーション」と呼ばれる製造業のサービス化現象について、ここでの原価計算・管理会計技法の役割を検討しています。日本の製造企業では、新製品開発において、古くから「原価企画」とよばれる原価管理手法が用いられてきました。近年新たに生じてきたサービタイゼーションにも原価企画が活用可能であるか、活用する場合にはどのような工夫が必要であるかなどについて分析を進めています。また、

プライシングを含む収益管理についても関心を寄せています。これによって、単なる「コスト削減」に偏らない利益管理のあり方を追求しています。

このほかにも、主にファミリー企業における事業承継を対象として、事業承継に管理会計が与える影響について研究をしています。京セラ発の管理会計手法である「アメーバ経営」を軸として、管理会計手法の活用による事業承継の円滑化に関して分析を進めています。

金澤 良昭

KANAZAWA, Yoshiaki

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

マーケティング

広報

マーケティング・コミュニケーション

オウンドメディア

広告

相談に応じられる関連分野

- Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

プロフィール

法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関係の広告、広報の実務に従事後、大学教員となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

研究・活動の内容

研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通して企業や商品に関するコミュニケーションを行っています。こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといいます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。

今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています（ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます）。

オウンドメディア（自社メディア）といわれるブログ/Webサイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価について探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでおります。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析をしておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム

甘泉 瑞応

KANSEN, Mizuo

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

価値共創

地域活性化

サービス・マネジメント

ベンチャー企業育成支援

サービス・イノベーション

相談に応じられる関連分野

- 経営環境の変化に対応する新しいサービスのデザイン
- イノベーションを起こす人材の育成
- 中小企業の経営支援や事業計画の策定支援

プロフィール

上智大学法学部卒、富士銀行入行、会津大学大学院博士後期課程単位取得後退学・博士（コンピュータ理工学）、東北大学大学院博士後期課程単位取得後退学。会津大学 SGU 推進室元室長、本学 SIC センター長。中小企業診断士。

産業界・地域へのメッセージ

地域におけるサービスのイノベーションや人材育成支援。

研究・活動の内容

持続的に成長を遂げているサービス企業がその変革期においてどのようにして事業システムを再構築しているのか、その設計思想を様々なアプローチから分析し、そのメカニズムをモデル化していく研究を行っています。具体的には、いくつかの企業の積極的な取り組みを調査し、その企業が直面する様々な困難を乗り越えるためにどのような意思決定を行ない、どのようなプロセスを経てイノベーションや体質強化をしているのか、そしてその先、どのようなゴールを目指そうとしているのかについての調査研究を行なっています。

モノからコトへのパラダイムシフトが浸透しています。また、IoT・ビッグデータ・AI活用の進化には目覚ましいものがあります。さらに、昨今のコロナ禍において消費者の意識や生活様式も大きく変化しています。このような先行きが読めない不確実性の高い環境において、企業は、脅威を機会に転換すべく、経営資源を見つめ直し、再構築を行い、ステークホルダーとも新たな視点で関係づくりをしていく必要があります。そして、環境に対応する新しいサービスのあり方を考え、デザインし、イノベーションを起こす人材を育成していくこともますます必要だと考えています。

組織における従業員のプロアクティブ行動の結果について

張 森

ZHANG, Sen

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

組織行動論

ダイバーシティマネジメント

Voice 行動

倫理的組織行動

相談に応じられる関連分野

- 企業倫理
- ダイバーシティ

プロフィール

2018 年に早稲田大学商学研究科に入学して、2020 年に博士後期課程に進学して、2025 年 3 月に博士後期課程を単位取得した上で退学して、4 月から西武文理大学に着任しました。

産業界・地域へのメッセージ

地域企業と連携して、持続的発展を目指しましょう。

研究・活動の内容

最近、旧ジャニーズ事務所のジャニー喜多川氏の性加害問題やビッグモーターの不正請求問題など日本の大手企業の不祥事が世間を騒がせ続けている。これらの不祥事に共通する特徴は、問題に気付いている従業員も少なからずいたにもかかわらず、企業側が適切な改善を講じることができなかったことである。特に、ヒヤリハットの段階で従業員たちが声を上げることを躊躇うこと、あるいは声を上げてでも無視されることが、これらの不祥事の一因だと考えられている。組織行動論では、組織メンバーが発信する倫理基準違反に関する懸念や倫理基準の維持に関わる提案などを倫理的発言

(ethical voice)と呼ぶ。

倫理的発言に関する先行研究においては、以下の 3 点が明らかになっている。第一に、従来の研究は主に倫理的発言の先行要因の解明に焦点を当てているが、その結果に関する知見は極めて限定的である。第二に、既存の倫理的発言の結果に関する異なる結論が報告された。第三に、多くの人々は倫理的発言が職場における緊張や報復を招くというネガティブな予期を抱き、倫理的発言を控える傾向にある。これらの知見を踏まえ、本研究では倫理的発言の結果を体系的に分析することを目的としている。

中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGsの研究

藤野 洋

FUJINO, Hiroshi

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

中小・ベンチャー企業の経営革新

SDGs (持続可能な開発目標)

中小企業政策、産学官連携

コーポレートガバナンス

CSR (企業の社会的責任)

相談に応じられる関連分野

- 中小企業経営の高度化に関連する事例の紹介
- CSR・SDGsを経営に導入した中小企業に関する講演
- SDGsの展開に関する自治体・公的機関等への助言

プロフィール

金融機関・シンクタンク等で中小企業の金融・経済動向、CSR経営の研究に従事。一橋大学大学院国際企業戦略研究科博士課程修了、博士(経営法)。日本中小企業学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

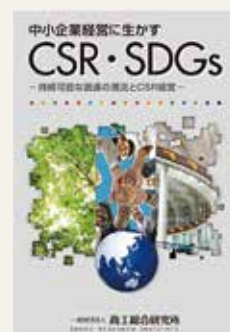
地域・産業界の連携によるSDGsの展開が喫緊の課題です。

研究・活動の内容

現在、地域経済とその担い手である中小企業が長期にわたって衰退傾向で推移しています。このため、日本の企業システムについて、主に中小規模の企業（ベンチャー企業を含む）に焦点を当て、企業活動やそのフレームワーク・環境の整備に関する研究を行ってきました。本学では、地域および中小企業の経済的な活性化のために必要な（政策）提言を目指しています。具体的には、これまでの成果を踏まえて、企業統治、CSR・SDGs、アントレプレナーシップ等に関する研究をさらに深めるとともに、ステークホルダーとの連携による地域の活性化にも取り組むと考えています。

研究成果に基づく図書

世界的にみても少ない中小企業のCSR・SDGsに関する研究を基にした図書



データの有効活用に関する研究

船山 貴光

FUNAYAMA, Takamitsu

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

データサイエンス データの可視化
計算機統計学 データマイニング
Web アプリケーション

相談に応じられる関連分野

- データ解析方法
- データの可視化
- データの提供（公開）方法

プロフィール

東海大学大学院総合理工学研究科博士課程修了、博士（理学）。東北大学にてヒトゲノム解析などの研究に従事した後、2025年4月より現職。日本計算機統計学会などに所属。

産業界・地域へのメッセージ

データを利活用する際にお役に立てれば幸いです。

研究・活動の内容

近年、ビックデータやIoTなどのブームにより様々なデータの収集が盛んに行われるようになりました。また、オープンデータの整備も一気に進み、自由に使えるデータが増えたことにより益々データを用いた課題解決に期待が高まっています。この膨大で複雑なデータを解析して有益な情報を抽出することができれば、様々な課題の解決に役立てることが可能だと考えられています。このような背景から、データを用いた課題解決に取り組もうとしている異分野の研究者らと一緒にデータ解析を始めとするデータの有効活用に関する研究を行っています。特にデータや解析結果の理解を手助けする

ための可視化方法の開発や解析結果を用いたサービスを展開するためのWebアプリケーションのプロトコル作成に注力し、データサイエンスの社会実装を見据えた一連の研究に取り組んでいます。

また、蓄積されたデータをみんなに活用してもらうためのデータの提供方法に関する研究も行っています。利用のしやすさは、利用目的や利用者のスキルによって異なります。データの利用者にヒアリングし、データが多くの人に有効に活用してもらえるようなデータの提供方法を模索しています。

小売業革新に関する実証分析

李 楊

Li, Yang

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

マーケティング イノベーション
小売業 質的比較分析（QCA）

相談に応じられる関連分野

- 消費者行動分析およびマーケティング調査手法

プロフィール

慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士（商学）。日本商業学会、日本混合方法学会、中国経済経営学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

小売業の持続可能な発展に貢献できればと思います。

研究・活動の内容

近年、人口減少やデジタル技術の進展、さらに消費者行動の多様化により、小売業はこれまでにない大きな転換期を迎えています。とりわけ、無人レジやモバイル決済などの新しい小売技術の導入は、店舗の業務効率を高めるだけでなく、消費者の購買体験そのものにも大きな影響を与えています。しかし一方で、「使い方がわからない」、「機械は不安」と感じる消費者も少なくなく、技術の受容には個人差があるのが現状です。

私の研究では、こうした新しい小売技術について、人々がどのように感じ、なぜ使うのか、あるいはなぜ使わないのか

を、アンケート調査による統計分析を通じて明らかにすることを目指しています。また、小売現場で働く方々へのヒアリング調査も行い、技術導入に伴う現場の工夫や課題にも注目しています。新しい技術がより多くの人にとって使いやすく、安心して利用できるものとなるよう、今後も実践的な視点を大切にしながら研究を続けていきたいと考えています。

医療・福祉 専門職支援

実習の看護学生の関わりが高齢者のQOLに及ぼす影響

飯室 淳子

IIMURO, Junko

看護学部 看護学科 准教授

キーワード

看護学教育

高齢者施設看護

世代間交流

相談に応じられる関連分野

- 介護保険施設実習における学生教育に関わる事項
- 介護保険施設における看護職の役割に関わる事項

プロフィール

桜美林大学大学院老年学研究科老年学専攻(博士前期課程)終了、修士(老年学)。看護師。東海大学医学部付属病院、早稲田医療技術専門学校、東海大学医療技術短期大学を経て2023年より現職。所属学会:日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本老年社会科学会、など。

産業界・地域へのメッセージ

高齢者が持っている力を発揮できる支援を大切にしたい

研究・活動の内容

看護学を学ぶ上で、実習教育は非常に重要な位置づけにあると考えます。老年看護学実習においては対象が学生とは異なる世代の高齢者です。祖父母世代との同居割合も減少している現況において、実習での関わりは世代間交流ともいえる相互関係により成立しています。実習に関する研究においては教育という観点から学生の学修内容や、指導側の教員や臨地実習指導者の指導内容に焦点をあてているものが多く見受けられます。しかし高齢者が持っている力を発揮できるように取り組む看護学実習の支援が、高齢者にとってどのような影響を及ぼしているか明らかにすることも必要と考え、この

研究をテーマに取り組んでいます。

病院での受持高齢患者を対象に行った研究成果を基に、今後は介護保険施設実習における関わりも視野に、老年看護学実習が高齢者のQOLに及ぼす影響について明らかにしていきたいと考えています。

小児看護学教育及び子育て支援に関する研究

井上 寛隆

INOUE, Hirotaka

看護学部 看護学科 講師

キーワード

小児看護

看護基礎教育

子育て支援

相談に応じられる関連分野

- 小児看護学教育について
- 子どもの看護について
- 子育て支援について

プロフィール

大学（看護学学士）で看護師、保健師資格取得。大学病院で勤務後、埼玉医科大学短期大学看護学科、2009年より西武文理大学看護学部看護学科で勤務し現在に至る。

産業界・地域へのメッセージ

子どもと地域が元気になれるように頑張っていきたいです。

研究・活動の内容

小児看護学教育では、小児看護学実習にむけて必要な準備として用いる課題、小児看護を思考する力と実践が結びつく演習（シミュレーション教育を導入した演習方法）、授業の順序性や展開方法についての検討を行っています。また、小児看護学実習時の教育では、学生の自己評価や他者評価の関連性やあり方、学生の実践を通じた思考力の向上を目指した教育方法について検討を行っています。その他、子どもを笑顔にできるようにするため、学生がユーモアをどのように捉えているかを知り、学生にどのようにユーモアを感じ、ユーモアの看護援助が実践できるようになるかを考えるために、

子どもや学生の捉えるユーモア、ユーモアカンファレンス（実習場面でのユーモアを振り返り考える）実践についてなどの検討を行っています。

2022年度の共同研究では、保育士や保育施設責任者を対象にした、コロナ禍における子育て支援に関する研究を行いました。2023年度の共同研究では、シミュレーション教育を導入した演習での学び、ホスピタリティ教育の教材化にむけた研究に取り組んでいます。

介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する

影山 優子

KAGEYAMA, Yuko

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 教授

キーワード

福祉介護職のキャリア形成

業務改善

福祉・介護人材育成

学生の地域活動支援

成長経験

相談に応じられる関連分野

- 福祉介護職員のキャリア形成に関する支援
- 福祉介護事業所の業務改善支援（調査研究実施の助言等）
- 地域活動等に関心を持つ学生とのマッチング支援

プロフィール

日本社会事業大学卒後、介護職員を経て同大学院博士前期後期課程修了、博士（社会福祉学）社会福祉士、精神保健福祉士。所属学会：日本認知症ケア学会、日本老年社会科学会、介護福祉学会、介護経営学会。

産業界・地域へのメッセージ

地域の中で面白い仕掛けを作っていきたいです！

研究・活動の内容

学生時代に高齢者介護の現場に触れる機会があり「介護の仕事はとてもおもしろく、奥の深いものである」と直感し、自らの初職を特別養護老人ホームでの介護職員としてスタートさせました。その後、大学院を経て現在に至るまで、一貫して介護福祉の現場やそこで働く職員に関する研究に取り組んでいます。

これまで行った研究テーマとしては、認知症高齢者に対するまなざしの研究、介護職員の成長経験、現場で活躍する介護リーダーの特性の研究、などがあります。いずれの研究においても現場で働く職員の意識や態度、またそれらの形成過程について着目しています。

最近では教員という職業上、特にキャリアのスタート時点である新卒者がどのような目的やきっかけで就職活動時に福祉介護業界で働くことを選択し、その後どのようなキャリア形成がされているかといったことに強い関心を持っています。

福祉介護職員のキャリアの構築については、キャリアパスの仕組みの導入や経験に応じた処遇改善の実施など様々なされていますが、こうした制度的枠組みの中で外発的に築かれていくキャリアとは別に、仕事に対してやりがいを感じ、経験そのものが成長に結びついていく内発的なキャリア形成のあり方に着目していくことが重要ではないかと考えています。

現代に活かすナイチンゲール看護論

神庭 純子

KAMINIWA, Junko

看護学部 看護学科 教授

キーワード

看護教育・看護倫理

家族看護

ナイチンゲール看護論

生活習慣病予防

公衆衛生看護

相談に応じられる関連分野

- 生活習慣病予防における地域活動への支援に関わる事項
- 看護専門職者の現任教育（看護倫理等）に関わる事項
- 教育一般及び家族問題に関わる事項

プロフィール

埼玉大学教育学部卒業、聖隷クリストファー大学看護学部卒業、同大学院修士課程修了 修士（看護学）、筑波大学 博士（学術）。主著：初学者のための『看護覚え書』第1～4巻（現代社）、『現代看護教育に求められるもの』（現代社）。

産業界・地域へのメッセージ

健康をキーワードとして地域づくりに貢献していきます。

研究・活動の内容

近年の看護教育を取り巻く状況は、少子高齢化の進展、医療技術の高度化、看護を提供する場の多様性等により変化してきており、様々な健康問題を抱える人々のニーズも多様化する中で、より質の高い看護を提供できる専門職者の養成が求められています。そこで、以下のように、看護教育及び地域における母子保健や成人保健に関するテーマで研究に取り組んできています。

まずは、ナイチンゲール看護論を基盤にした看護教育に関する研究と実践です。看護の原点であるナイチンゲール『看護覚え書』を現代社会に活かす視点から論理的に読み解いて

います。研究成果をもとに看護専門職者の現任教育として、看護倫理に関する研修支援をしています。

次に、生活習慣病予防対策に関する研究への取り組みと地域活動の支援です。また、養育期の家族機能の視点から虐待予防のための母親及び父親の育児不安の要因に関する研究に取り組みました。現在は、公衆衛生看護実践能力を育成する教育プログラムの検討に取り組んでいます。

今後も、看護基礎教育のみならず地域の看護専門職者の研修支援や、健康寿命の延伸を目指すための地域づくり活動に専門性を活かして貢献していきたいと考えています。

在宅看護・訪問看護の発展

小松 妙子

KOMATSU, Taeko

看護学部 看護学科 教授

キーワード

在宅看護

訪問看護

看護学教育

相談に応じられる関連分野

- 訪問看護師対象の研修支援

プロフィール

千葉大学看護学部卒、看護学修士（千葉大学大学院）。看護師、保健師。千葉県がんセンター看護師、東京都小平市役所保健師、秀明大学看護学部教授を経て2021年4月より現職。

産業界・地域へのメッセージ

より良い在宅看護・訪問看護をめざし共に歩みましょう。

研究・活動の内容

すべての人が望む場所で、人間として生活者として尊重され、目標に向かって生き、また生を終えることを支援する在宅看護への期待と重要性は高まっています。在宅で看護を直接的に担う訪問看護師への活躍もますます期待され、期待に応えるには日々進歩する医療や看護ケアに関する知機や技術をタイムリーに学修・修得できる学習機会が必要です。しかし、知識・技術の修得の機会や体制は十分ではありません。そのため、これまで訪問看護師への学修ニーズ調査に基づき、教育プログラムを開発し、実際に感染予防の研修会を開催し効果検証を行いました。今後は、在宅ターミナルケア実施に

伴う学修ニーズ調査結果を踏まえて必要とされる学修内容を組み入れた研修会を開催し、より良い在宅看護に貢献したいと考えます。

また、訪問看護事業所の安定的な経営に関する支援について、看護学部とサービス経営学部をもつ大学の強みを活かして研究しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

プレパレーション・処置後の遊びへの看護介入

坂田 徳生

SAKATA, Tokusei

看護学部 看護学科 講師

キーワード

子どもの権利
処置後の遊び
小児看護
プレパレーションの評価
プレパレーション

相談に応じられる関連分野

- 小児臨床看護に関する事項
- 障害児（者）への看護
- 小児看護でのキャリアアップ

プロフィール

看護師免許取得後、グリフィス大学保健学部編入・卒業、国際医療福祉大学大学院修士課程修了（医療福祉修士）。臨床では主に大学病院の小児病棟勤務。2023年4月本学へ着任。

産業界・地域へのメッセージ

様々な健康状態の子どもと家族を支援する教育を進めます。

研究・活動の内容

近年の小児看護学の教育や臨床での小児看護では、子どもの権利や子どもを尊重することを基盤として、その教育と医療が行われ、看護が実践されています。その中でも医療に対する子どもの不安や恐怖の軽減、疼痛緩和、親の不安の軽減などを目的として、医療処置、手術、検査を受ける子どもを対象に、事前に実施する「プレパレーション（心の準備）」の必要性の認識が浸透し実践することが定着してきています。このプレパレーションについては、小児看護において特有であり、これまで数多くの研究が報告されています。

最近、着眼しているプレパレーションに関する研究につい

ては、処置・検査・手術後、あるいは緊急入院後に行うべき「処置後の遊び（post procedure play）」での看護介入の方法、数多く報告されているプレパレーションに関する研究の動向です。大学は研究・教育機関であること、看護の実践の場においては研究が必要であるということから、研究の成果は、臨床のほか、大学における教授内容にも活用していきたいと考えています。

看護師が働き続ける環境の整備

祥雲 直樹

Sakumo, Naoki

看護学部 看護学科 講師

キーワード

看護師
就労継続
看護師の働き方
ワークエンゲイジメント

相談に応じられる関連分野

- 介護保険施設で働く看護師の就労継続

プロフィール

病院、透析クリニックで看護師として勤務。その後、東北大学大学院医学系研究科宮城地域医療支援寄附講座、東北文化学園大学、医療創生大学を経て、2025年4月から現職。

産業界・地域へのメッセージ

地域や医療現場に還元できる研究を実践していきます。

研究・活動の内容

現在の日本の高齢化率は3割程度になっており、少子化にも歯止めがかかっていないのが現状です。少子高齢化の進行は労働人口の減少にも繋がりますが、それに伴う看護人材の減少や偏在がこれから大きな課題となっていくと考えています。特に、高齢化が進行する地域、震災後に人口減少が起きた地域など、課題を多く抱える地域は将来的に医療施設を維持することすら困難になることが懸念されます。

看護師の離職予防というとネガティブな話題になりがちですが、それよりもいかにモチベーション高く就労を続けられるかというポジティブな側面に着目して、主に介護保険施設

を切り口に研究を行っています。これまで行ってきた研究を通して、ある意味当たり前のことですが、組織の核となる理念や信念といったものが職員に浸透していることが前向きに職務に臨むためには大切であるということを感じています。人材の確保が困難となっていくなかでも、看護の質を維持・向上ができるように業務に臨む環境を整備する一助になるような研究や実践を目指しています。

組織構造の改革における急性期病院の看護師長の経験－病棟再編に焦点をあてて－

佐藤 直子

SATO, Naoko

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

看護管理

病院統合

組織改革

病棟再編

相談に応じられる関連分野

- 看護管理者教育に関わる事項
- 病院統合・病棟再編などにおける看護管理実践に関わる事項

プロフィール

日本赤十字看護大学大学院修士課程(看護教育学専攻)修了後、日本赤十字社医療センターにて看護師長として勤務。その後、神奈川県立保健福祉大学実践教育センターにて看護管理者教育課程・多職種連携推進課程の専任教員として勤務しながら、日本赤十字看護大学大学院博士後期課程(看護管理学専攻)修了し現在に至る。

産業界・地域へのメッセージ

“人との対話を大切に”をモットーに看護専門職を育成していきたいです。

研究・活動の内容

我が国では、2025年には国民の4人に1人が75歳以上となることが推測され、医療費の増加が国民所得の増加を上回り、医療費の抑制を目的とした医療提供体制の改革が行われてきました。さらに、2040年に向け、労働力となる現役世代の人口が急減する新たな局面が推測され、保健・医療・福祉の提供サービスの確保が課題となっています。国民がよりよく地域で生活ができるよう他職種と連携して支援できる看護専門職の育成は重要であります。医療施設での現任教育、リカレント教育に携わり、看護管理者が将来を見越してどんな役割が期待されるのか研究してきました。研究する中で、

将来を見越した分析力や意思決定能力が問われていました。

さらに、よりよい看護サービスを提供できるよう、組織を動かしたり、医療施設、福祉施設、地域医療に関わる多職種との連携において、伝統的な考え方を大切にしつつ新しい視点を持ち、対話を重ねることが必要であることが示唆されました。そのためには、看護基礎教育の中で、相手と対話する能力、看護サービスを提供する上で必要な基本的知識を習得しながらも自分なりの問題意識を持ち、それを探求していく能力を育てていきたいと考えています。

看護技術習得支援の教材開発と実践

渋谷 寛美

SHIBUYA, Hiromi

看護学部 看護学科 教授

キーワード

看護技術教育

基礎看護実践

患者指導

教育評価

教材作成

相談に応じられる関連分野

- 看護技術・患者教育に対応した教材と授業設計
- 多職種連携を意識した実践的教材・教育支援
- 現場と連携した教材活用・技術評価と指導法

プロフィール

博士(看護学)基礎看護教育を中心に、看護技術の教育と患者への技術指導に関する教材開発と実践に取り組んでいます。

産業界・地域へのメッセージ

看護技術の学びを丁寧に支援します

研究・活動の内容

基礎看護教育を中心に、看護技術の習得に関する教育実践に取り組んでいます。特に、臨床現場において看護師が行う看護技術について、学生が安全かつ確実に学べるよう、支援教材の工夫を重ねています。また、看護師だけでなく患者自身もしくはその家族が行う技術(自己注射・創部処置・吸引等)を想定し、患者およびその家族への技術指導を含む教材づくりにも取り組んでいます。

これらの教材開発は、視覚的な支援教材や手順書の改良にとどまらず、近年ではVR教材などICTを活用した学習の支援にも広がりつつあります。多職種連携を想定した教育内容

とその教授・学習方法、臨床現場での教育的支援のあり方を継続的に検討しています。

今後も、教育や臨床の課題を検討し、より実践的で柔軟な看護教育の構築に寄与したい努めたいと考えています。

外国人医療人材への支援プログラムの構築－外国人技能実習制度の活用に向けて－

鈴木 浩美

SUZUKI, Hiromi

看護学部 看護学科 准教授

キーワード

EPA 看護師	外国人医療人材（福祉）
就労実態	福祉施設管理者

相談に応じられる関連分野

- EPA看護師の就労実態に関わる事項
- 介護老人福祉施設管理者の外国人介護労働者の受入れ実態

プロフィール

聖隷クリストファー大学看護学研究科 後期博士課程 満期退学、修士（学術）。日本看護科学学会、日本看護管理学会等に所属。

産業界・地域へのメッセージ

外国人医療人材の支援をこれからも考えていきます。

研究・活動の内容

日本の第7期介護保険事業計画によると2025年度末までに必要な介護人材は約245万人であるが、2019年の時点では約211万人と、大幅に不足している状況である。その総合的な介護人材確保対策の1つとして外国人国籍の人材受入環境の整備がある。2020年現在16,500人以上の外国人医療人材が日本で就労している（法務省、2020）。

介護老人福祉施設（関東3都県、関西3県）の施設管理者に調査した結果、老人福祉施設での外国人介護労働者の受入れ制度は、「技能実習制度」、「EPA（Economic Partnership Agreement）介護士」、在留資格「介護」によるもの、「特定

技能1号」の順に多かった。受入れにあたって、言語などを含めて外国人介護労働者に対応できる担当者を配置し、その支援体制を構築する必要性を認識していた。希望する支援内容は、受入れ成功例に関するものが7割を占め、導入支援、手続き支援、定着支援、留学生の活用、失敗事例等があった。今後は外国人介護労働者の受入れ成功体験や介護労働者本人との交流など、情報共有の場を持ち、施設管理者の受入れ意識を高めることが求められている。（科学研究費補助金 課題番号：17K09249、研究代表者：井野恭子）

がんサバイバー・家族支援の検討、地域共生型の健康と子育て支援

関根 みぎわ

SEKINE, Migiwa

看護学部 看護学科 助教

キーワード

がんサバイバー	子育て支援
AYA世代	学生の地域活動支援
家族看護	

相談に応じられる関連分野

- がん患者・ご家族への支援について
- 周手術期における看護に関すること
- 地域の子育て支援、健康づくりについて

プロフィール

埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。修士（看護学）。埼玉医科大学病院、同大学国際医療センター勤務を経て現職。日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本クリティカルケア看護学会、聖路加看護学会等に所属。

産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様に貢献できるよう研究活動に取り組んでいます

研究・活動の内容

がんはすべての人にとって身近な病気です。現在がんに対する標準治療として集学的治療が行われています。その中でも手術療法は、健康回復やQOL向上を目的として行われる治療ですが、患者さんのみならず周囲の人々をも巻き込む人生の一大事と言えます。手術後は、生活のしづらさや、退院後の生活に対する漠然とした不安、それまでと生活が一変してしまうことへの動揺など、患者さんや家族は様々な困難が生じる可能性があります。手術療法を受ける患者さんご家族に対する看護ケアや、手術後の生活の立て直しに向かう支援のあり方を検討し、ケアの構築につなげていきたいと考え

ています。また、がんサバイバーとご家族が、住み慣れた地域でより充実した生活を送ることができるよう研究に取り組んでいます。

そのほか、地域の皆様と協働し、学生と共に子育て支援事業等に積極的にに関わり、子育てがしやすい環境づくりに努めています。また、様々な世代の方同士が楽しみながら健康づくりに取り組めるような活動に携わっています。これらの活動を通して、地域の方々同士の交流を深め、互いに支え合いながら安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたいと考えています。

指導看護師が新人看護師に感じる指導時のかかわりの苦悩

八田 史絵

HATTA, Fumie

看護学部 看護学科 助教

キーワード

指導看護師

OJT

新人看護師

新人教育

相談に応じられる関連分野

- 新人教育
- プリセプター教育
- 現任教育

プロフィール

看護師。大学病院などに勤務しながら、順天堂大学大学院医療看護学研究科博士前期課程修了。修士（看護学）。

産業界・地域へのメッセージ

指導看護師に求められる指導スキルについて考えていきます。

研究・活動の内容

現在臨床の現場では、新人看護師の指導に、新人看護師と歳の近いプリセプターだけでなく、歳の離れた様々な世代の看護師が指導に関わっています。新人看護師と指導する看護師の世代が離れていると、新人看護師との日常的な関わりや指導に、思い悩むことがあります。

新人看護師と世代の異なる指導看護師が、新人看護師へ効果的な指導が実践できるように研究し考えていきたいと思えます。

精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス

原田 瞳

HARADA, Hitomi

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

看護教育

精神看護学

自己洞察

相談に応じられる関連分野

- 精神科看護に関する事項
- 精神看護学実習指導に関する事項
- 心の健康に関する事項

プロフィール

看護師。修士（順天堂大学大学院医療看護学研究科）。精神科勤務を経て2010年より看護教育に従事、2019年より現職。日本精神保健看護学会、日本精神障害者リハビリテーション学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

看護師育成への環境提供ありがとうございます。

研究・活動の内容

精神看護の実践では、精神科に入院する患者の気持ちや状況をありのままに受け止め、患者のその人らしい生活や、自己決定を見守り支えることが重要である。

しかし、実習で初めて精神科を訪れる学生は、それまで疾患や看護についての学習を経ても精神科に対する恐怖感や強い緊張感を持って実習に臨む学生も少なくない。

そこで精神看護学実習における、精神科に入院する患者を理解しようとする時の学生の感情や思考に着目し、学生が自分自身への洞察を経ながら患者を理解しようとするプロセスを明らかにした。学生が自分自身への気づきや患者を理解し

ようとするプロセスを大切にしながら教育活動を行っている。

また、精神看護の実践においては、言語化されない看護師の行動の中にも、常に精神看護の実践が行われていると考えている。精神看護はコミュニケーションが重要であり、また、自己活用等というキーワードはあるが、患者との関わりの中で生じる行動が、なぜそれが精神看護なのか、という点の多くは明らかになっていない。看護実践のなかに根付いている精神看護をさらに細かく抽出していく事が、今後の精神看護の課題であると考えている。

地域・在宅の場における医療・福祉・看護専門職の実践的ケアの検証

日野 徳子

HINO, Noriko

看護学部 看護学科 講師

キーワード

地域 在宅看護、在宅介護

在宅における生活支援

居宅介護支援、ケアマネジメント

専門職種間の連携・協働

看護教育、介護教育

相談に応じられる関連分野

- 地域・在宅看護、介護福祉、ケアマネジメントに関する事項
- 看護師、介護福祉士、介護支援専門員の業務や教育に関する事項

プロフィール

看護師、社会福祉士、介護支援専門員。病院・地域での勤務を経て、介護福祉士養成校、看護大学で医療・福祉・看護教育に従事、2025年より現職。修士（看護学）

産業界・地域へのメッセージ

住み慣れた地域で人々の生活に根ざした看護の実践を考えています

研究・活動の内容

自身の経験をふまえ、看護師や地域で働く専門職が「様々な疾病や状態にある人々が、住み慣れた地域でその人らしい生活を継続していくための支援」を検証し、課題や知見を積み上げていく研究を行っています。また、在宅での看護教育では「地域包括ケアシステム」の考え方も重要になるため、学生が実習体験を通して地域で暮らす人々の生活課題や学びを検証していく研究も行っています。

【今までの主な研究実績】

- ・ 地域包括支援センターに勤務する3職種の専門性
- ・ 訪問看護ステーション間での連携・協働
- ・ 医療的ケア児受け入れ保育園看護師の感染症対策・予防
- ・ 難病療養者の在宅療養継続に向けた専門職の支援やマネジメント
- ・ 訪問看護ステーション間での連携・協働
- ・ 4年生の専攻分野選択に影響する臨地実習での学び
- ・ 学生のパーキンソン病患者の個別理解につながる実習指導
- ・ ICTを活用した訪問看護ステーション実習の構築
- ・ 療養移行支援実習を取り入れた在宅実習での学生の学び

LGBTQ+におけるHIV感染症やアディクションへの支援

保坂 嘉成

HOSAKA, Yoshinari

看護学部 看護学科 助教

キーワード

慢性看護学

アディクション

LGBTQ+

HIV 感染症・AIDS

相談に応じられる関連分野

- LGBTQ+やアディクションに対する支援
- 看護師を対象にした医療安全教育
- 遺伝子関連検査等の自律的意思決定支援

プロフィール

川崎医療福祉大学大学院修士課程修了。修士（保健看護学）。東京大学医学部附属病院で副看護師長、医療安全管理者として勤務。医療創生大学看護学部助教を経て現職。

産業界・地域へのメッセージ

LGBTQ+の人たちが医療とつながる社会を目指します。

研究・活動の内容

LGBTQ+の人々は社会的に多くの障壁に直面しており、それは医療分野においても例外ではありません。特に HIV 感染症のリスクの関連したコミュニティにおいては、病気の予防及び治療が迫切な課題となっています。また、LGBTQ+の人々が直面する「生きづらさ」は、様々な背景が複雑に絡み合っています。性的指向や性自認に対する社会的な偏見や誤解が原因で、医療にアクセスされず適切なケアが行われないことで、心理的な問題やアディクション（依存症）を抱え、HIVを含む健康問題が悪化する事例があります。

看護研究において、LGBTQ+のコミュニティが直面する

特有の健康問題を深く理解し、それに基づく支援プログラムを開発することが重要です。特に HIV 感染症の予防と管理、アディクションの治療支援、精神的な健康支援など、包括的な医療サービスを提供することが不可欠です。この研究は、医療の質を向上させるだけでなく、LGBTQ+の人々が直面する社会的な問題への認識を高め、より公平な医療アクセスを実現するための基盤を築くことにも寄与します。したがって、看護師の役割は単に医療的なケアを提供することに留まらず、教育や公衆衛生の改善にも寄与し、LGBTQ+の人々が直面する医療及び社会的な課題の解決に貢献します。

成人看護学教育、社会人基礎力育成に関する研究

森川 奈緒美

MORIKAWA, Naomi

看護学部 看護学科 准教授

キーワード

シミュレーション教育

教育手法

卒後教育

相談に応じられる関連分野

- 新人教育カリキュラム
- シミュレーション教育
- ファシリテータスキル

プロフィール

臨床で学生の実習指導を担当した後、教員養成講習会を受講。国際医療福祉大学大学教員として勤務しながら同大学院で保健医療学修士を取得、博士課程で学ぶ。2024年度より現職。

産業界・地域へのメッセージ

皆様との連携を大切に社会に求められる看護職育成を。

研究・活動の内容

看護職は、基礎教育で学力と専門知識を身に付け国家資格を取得し、職場や地域社会に出て仕事をします。しかし、基礎学力や専門知識の重要性に加え社会人基礎力を身に付けなければ、実際に社会で活躍し生き抜くために必要な力にはならないと考えます。SNSの普及やコロナ禍の影響を受け、実際に人と直接交わる機会が減少しました。好まない人との接触を避けることが容易にできるため、従来自分を真理に導いてくれる人の苦言を避け、人間関係での耐性が低下しています。経験や生活体験の不足から、従来備わるはずのスキルが自然には身につけにくくなった環境があります。社会の動

きに関心を持ち、看護を幅広い視野で見る力を養うために、これまで看護学生の対人スキルの向上、成人看護技術の育成を柱に研究していますが、学内にとどまらず地域との交流によりその学習の機会が得られればと考えております。

看護教育・教育評価に関する研究

大和 広美

YAMATO, Hiromi

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

看護教育

教育評価

成人看護学

相談に応じられる関連分野

- 成人学習に関する事項
- 学生の教育に関する事項
- 周手術期看護に関する事項

プロフィール

看護師。大学病院での病棟勤務を経て、2013年順天堂大学大学院医療看護学研究科修士課程修了。看護学校や大学にて教育に携わり、2024年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

成人学習者として自らも学びながら、一人一人が自分らしく生活できるよう、支援していきたいと思っています。

研究・活動の内容

成人看護学における実習評価の研究を行っています。学生は、実習中に様々な経験をしており、一人一人その経験は違います。しかし、それらの経験は、どのように評価されているのでしょうか。看護における教育現場の課題として、看護大学の増加に伴い教員の慢性的な不足や教員の質の確保といった教員に関する課題が挙げられています。このような背景も含め、教員の看護の価値観に左右されない実習評価の検討をしています。

また、インストラクショナルデザインを用いた授業設計やVRを用いた授業に関する研究を行い、学生の学習に対する

動機づけや興味関心の維持向上に向けた研究をしています。今後は、授業実践と臨地実習への学びの転移に関する研究を進めていきたいと考えています。

教育・スポーツ・ 生涯学習

企業・経営支援

医療・福祉専門職支援

教育・スポーツ・生涯学習

観光・まちづくり

子育て・障害者支援

健康づくり

スポーツマインドを育成する

加藤 三彦

KATO, Mitsuhiro

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 教授

キーワード

コーチング	ボランティア
フェアプレイ	ホスピタリティ
コミュニティ	

相談に応じられる関連分野

- 各種分野におけるコーチングについての事項
- スポーツ分野における指導法についての事項
- 自己向上のためのマインド・スキルについての事項

プロフィール

筑波大学体育専門学群卒。日本コーチング学会・日本バスケットボール学会に所属。JBA公認A級コーチ、JBAコーチデベロッパー、埼玉県バスケットボール協会理事、男子バスケットボール部監督。

産業界・地域へのメッセージ

フェアプレイの心と行動で、人づくり・地域づくり。

研究・活動の内容

スポーツ科学領域に位置付けされているコーチングをベースに、フェアプレイの心と行動について、教育・研究・指導を行っています。スポーツは、人間が健康で豊かに生活するためには欠かせない文化です。明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個人の心身の健全な発達、社会におけるリーダーシップ発揮などには、身体的能力だけではなく、しっかりとしたマインドや他者理解力が必要です。専門分野であるバスケットボール部にも携わり、適切な判断力やチームをまとめる統率力、マネジメント力などのチームビルディングの在り方を追求しています。部活動の指導を通して、強化を図ると共に、

部員の人間力向上に努めています。

地域貢献活動として、バスケットボール教室等、本学のバスケットボール部員と一緒に小・中・高校生の育成・指導を行っています。また、全国のバスケットボール指導者の講習会講師を務めています。

2024年度は昨年度に引き続き、狭山市役所新任課長研修・「モチベーションマネジメント」についてお話しする機会をいただきました。

2025年度は、より一層、社会貢献活動の充実に向け、【安心・安全】なスポーツ教室・講習会運営に取り組んでいきます。

親密な人間関係を求める心理、関係の維持と崩壊について

神野 雄

KANNO, Yu

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 専任講師

キーワード

恋愛関係 自己愛
親密な人間関係 重要な他者
嫉妬

相談に応じられる関連分野

●心理学に関わるアンケート調査、講演

プロフィール

神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程後期課程修了、博士（学術）。東京経営短期大学こども教育学科専任講師を経て、2024年4月より現職。

産業界・地域へのメッセージ

大切な誰かとの関係に支えられて成長し、苦悩する「あたりまえ」を心理学を通して科学していきます。

研究・活動の内容

「他者と真に親しい人間関係を構築し、維持するためには何が重要か」が研究活動における興味関心の核で、心理学の観点から研究を行ってきました。

私たちの日々の生活は、家族、恋人、その他の様々な「重要な他者」との関係が良好であることで、幸福・健康につながるのではないのでしょうか。重要な関係を幸福に維持する要因を実証的に示すことができれば、現代社会が抱える少子化、離婚問題などの問題を低減できるかもしれません。

そこで、過去の研究では、恋愛関係における嫉妬に焦点を当て、過去に国内外の心理学的研究において嫉妬がどのよう

に研究されてきたか検討し、また実際にアンケート調査を通じて嫉妬はどういった要因によって強められるのか、嫉妬が個々人の心にもたらす影響、関係にもたらす影響について、研究を重ねてきました。

近年では主に若い世代の方々の関心が自身の身近な恋愛だけでなく、いわゆる「推し」などの新たな様態の人間関係に向けられていることに着目して、ゼミの学生たちとともにアンケート調査を行い、その現代的な意義についても検討をしており、今後調査を継続していきたいと考えています。

英語授業学研究(学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化)、4技能の連動性と英語運用能力向上

鈴木 政浩

SUZUKI, Masahiro

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 准教授

キーワード

英語授業学 音読音声指導
技能連動 リメディアル教育
望ましい授業

相談に応じられる関連分野

●英語音声指導
●英語学習方略指導
●評価分析

プロフィール

桜美林大学国際人文社会科学（博士後期課程）単位取得満期退学。日本リメディアル教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会（JACET）他に所属。

産業界・地域へのメッセージ

英語苦手意識克服と自信回復に関する研究を進めます。

研究・活動の内容

現在科研費を得て英語授業学研究を進めています。英語授業学研究とは授業の発展過程を枠組として提案し、その枠組の効果を検証する学問です。どのような授業が望ましいのかを授業の楽しさを交えながら枠組として提案し、その効果を検証しています。授業を成立させるための授業者の資質や指導内容をふまえた授業づくり、楽しい授業の要因を意識した授業づくり、異文化間コミュニケーションと自己像形成のための授業づくりと授業を発展させます。さらにその先に4技能の連動性を意識した指導により、英語運用能力を高める道筋を探っています。この望ましい授業の枠組の他、理想FL

（Foreign Language）自己の考え方をふまえた枠組、語彙指導、音読発音指導における枠組等について提案をしながら、多くの英語教員に、名人の授業を可能にする研究と実践を進めています。

現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究

瀬沼 文彰

SENUMA, Fumiaki

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 准教授

キーワード

コミュニケーション学 現代社会論

若者研究

笑いとユーモアの研究

相談に応じられる関連分野

- 現代社会のコミュニケーションの特徴と実践について
- 笑いとユーモアの日本社会の傾向と実践方法について
- 若者（若手社員）とコミュニケーションギャップを埋める

プロフィール

東京経済大学コミュニケーション学研究科博士後期課程単位取得満期退学、日本笑い学会理事、『キャラ論』（スタジオセロ）、『ユーモア力の時代』（日本地域社会研究所）。

産業界・地域へのメッセージ

コミュニケーション学、笑いの研究で貢献したいです。

研究・活動の内容

私の研究は主に2つになります。1つ目は、コミュニケーションに関する研究です。特に、若い世代のコミュニケーションに着目し、彼らのコミュニケーションの特徴や人間関係についてフィールドワークを行っています。具体的には、若者たちが頻繁に使用することばの特徴の整理、そのことばの背後にある意味や社会について調査しています。また、個人の性格や特徴を表すキャラ（キャラクター）のコミュニケーションについて継続的に研究を行っています。これらの研究をベースに、コミュニケーションの世代間ギャップを埋めるための処方箋の提案などで地域や様々な組織に貢献したいです。

2つ目は、笑いとユーモアの研究です。私自身は、大学の教員になる前に、大手芸能プロダクションにて3年間、実践者としてお笑い芸人をしていました。その経験を活かし、様々な場での笑いの作り方について考えています。楽しさが様々な場で求められる現代社会には、笑いの作り方は地域にも組織にもお役に立てることだと思っています。また、フィールドワークを通し、若者たちがどんな人を面白い人と考えているか、笑いの作られ方、メディアとの関係、愛想笑いの意味や社会背景、笑いや笑わせるコミュニケーションが重視される社会背景などについて研究しています。

英語教育におけるエンゲージメントの実践と理論

土屋 進一

TSUCHIYA, Shinichi

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

第二言語習得論

英語教育学

相談に応じられる関連分野

- 第二言語習得論（中学高校現職教員向け）
- 英語指導法（中学高校現職教員向け）
- 英語学習法（一般学習者向け）

プロフィール

法政大学大学院人文科学研究科修士課程修了。西武学園文理高等学校で21年勤務。2024年度より西武文理大学専任講師。2025年4月に『日本の英語教育のゆくえ』（幻冬舎）を刊行。

産業界・地域へのメッセージ

科学的根拠に基づく効果的な英語学習法をご提案します。お気軽にご相談ください。

研究・活動の内容

グローバル社会とAI時代において、英語教育の重要性はますます高まっています。塾、中学、高校、大学と幅広い教育現場での長年の経験を通じて、日本の英語教育がどのように進化してきたのかを研究しています。この研究は、最新の英語教育理論と実践に基づき、過去の教育の変遷を振り返りながら、今後の英語教育の方向性を探るものです。現場で培った知識を活かし、受験英語を超えた学習意欲と能力を引き出すため、より効果的で実践的な教育法を提案しています。教育現場に根ざした実践を通じて、未来に向けた英語教育のあり方を模索し、実践的かつ効果的な教育の実現に貢献します。

研究成果に関する著作

本書は、過去30年にわたる英語教育の変遷を探る一冊です。1990年代の文法訳読法から始まり、アクティブラーニングやPBL型授業、教科横断型授業など最新の教育動向に至るまで、具体的な指導例とともに英語教育の進化を詳細に描いています。コロナ後の教育改革やウェルビーイング、生成AIとの共存も取り上げ、未来の英語教育の展望を考察しています。教育関係者や英語学習者にとって、実践的で洞察に富んだ一冊です。



日本語を通じて外国人と地域社会を繋ぐ

牧野 充

MAKINO, Mitsuru

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

日本語教育

異文化理解

相談に応じられる関連分野

- 留学生の高等教育機関への進学支援
- 学習者の生活や就労に必要な実用日本語の指導
- 文化的違いの理解促進

プロフィール

大学卒業後、都内の日本語学校に勤務。(2021年～学校長) 留学生から外資系企業の日本駐在員、海外のアイドル等幅広く日本語指導を行う。2025年4月より現職。登録日本語教員。

産業界・地域へのメッセージ

多様性を強みにする社会づくりに貢献したいです。

研究・活動の内容

令和元年6月に「日本語教育の推進に関する法律」、その後令和7年4月に至って、「日本語教育機関認定法」が施行されました。この法律の主たる目的は、外国人が日本社会で円滑に溶け込むことができ、共生を図るための環境整備と日本語教育の質を確保することです。

このことは、少子高齢化の進行著しい現在において、「労働力としての外国人」というだけでなく、「地域コミュニティの構成員」として異なる文化的背景を持った人々との共生社会を実現する一つの契機になるものと思います。

私はこれまで多年に渡り、主にアジア諸国の留学生に対し

日本語教育を行ってきましたが、そのゴールは大学等の高等教育機関へ進学させることでした。今後は、そのゴールが日本社会、地域社会になります。そのため今後、取り組むべき課題として、日本語力の更なる引き上げ、文化・制度・言語の違いに基づくギャップの是正・理解をアクティブラーニングに代表される実践的な活動により図っていくことが挙げられます。また日本人の配偶者、外国人駐在員などの方々に対しての指導経験から、生活者としての日本語教育を提供し、地域住民の方との交流を促進する活動にも取り組んでいきたいと考えています。

ホスピタリティ教育—AI時代に生き残る人とは

宮島 健次

MIYAJIMA, Kenji

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

人材育成

ホスピタリティ教育

リーダーシップ

相談に応じられる関連分野

- 人材育成の方法、カリキュラム等
- 新人研修や社員研修におけるホスピタリティ教育
- 若い人材との良好な付き合い方

プロフィール

日本大学大学院文学研究科博士後期課程教育学専攻満期退学。国際学修士。専門は比較教育学（イギリス）。所属学会は日本比較教育学会、日英教育学会等。

産業界・地域へのメッセージ

「人は城」。社員を大切に組織でありましょう。

研究・活動の内容

比較教育学を専門としており、これまでにイギリスのパブリック・スクールなどのエリート教育や大学入試制度について研究してきました。そこで得られた知見は、たとえばリーダーシップや人心掌握、ガバナンスの方法として、大学での教育実践に活かされています。

教育学と聞くと多くの方が「学校の先生のための学問でしょう」と言います。しかし、これは誤解です。教育学とは、人とはどういうものか(心理学)、人としてどうあるべきか(倫理学)を総合した学問であり、人生をどのように生きたいのか(哲学)を追求・実践する学問です。いわば「人間学」

ですから、すべての人に関わる学問ですし、対人関係全般に通用する学問であるともいえるでしょう。私自身、以上のことを常に意識し、本学ではホスピタリティをいかに教育するかといった講義科目に加え、ものの考え方や発想法、パフォーマンス・マネジメントの方法に特に重点を置いて指導しています。

現在は、AI時代における人間教育のあり方全般に興味があります。これからの時代は、これまでの考え方、方式がまったく通用しない時代となるでしょう。ではどうしたらいいのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

観光・まちづくり

ドイツ企業史、西洋経済史

伊東 林蔵

ITO, Rinzo

サービス経営学部 サービス経営学科 助教

キーワード

経済史

鉄鋼業

ドイツ

アメリカナイゼーション

ナチズム

相談に応じられる関連分野

- EU経済の成り立ちとその心臓としてのドイツ経済
- 自由主義経済における国家と市場、政府と企業の関係

プロフィール

千葉大学文学部史学科卒業、東京大学大学院経済学研究科経済史専攻博士課程単位取得満期退学（経済学修士）。法政大学大原社会問題研究所兼任研究員、同経済学部兼任講師、東京国際大学経済学部非常勤講師等を歴任。中学校教諭一種（社会）・高等学校教諭一種（地理歴史）。

産業界・地域へのメッセージ

グローバル化の中で西武・東上地域をより元気にするお手伝いをしたいと思います。

これまで、主にドイツ企業史を研究してきました。世界恐慌期に危機に陥ったドイツの鉄鋼企業が、ヴァイマル共和国とナチ・ドイツという二つの経済体制の転換期に、どのように再編されたのか。この研究には、鉄鋼企業の破綻や外国資本による買収を阻止しようと介入するドイツ政府の他にも、株主、経営者、労働者、地域経済などの注目すべき多くのアクターが登場し、経済危機における政府介入の程度、経営組織のアメリカナイゼーション、ナチ再軍備・戦時経済への鉄鋼企業の適応など、分析すべき多くの問題が含まれています。

外国資本による鉄鋼企業の買収を政府が阻止しようとすることは、現在のアメリカでも起こっています。戦争と企業の共益関係は、一貫して問題となっています。昨今、メディアの中心がSNSとなる中で、欧米諸国や日本でポピュリズムが台頭している様は、1930年代のドイツを彷彿とさせます。経済史は、現在の経済や社会に大きな示唆を与えるものになりうるのです。最近では、アメリカナイゼーションの世界的な広がり、長いヨーロッパ統合史におけるドイツ鉄鋼業の役割などをグローバル化の歴史の中に位置付けていこうと考えています。

観光人材育成におけるホスピタリティ教育の実現

神田 八穂

KANDA, Yaho

サービス経営学部 サービス経営学科 専任講師

キーワード

ホスピタリティ ツーリズム
サービス 接客教育
おもてなし

相談に応じられる関連分野

- 従業員の接客研修
- グローバル化に伴うおもてなしを考える

プロフィール

津田塾大学国際関係学科卒。キャリアコンサルタント。国民金融公庫(現:日本政策金融公庫)総合職、全日本空輸株式会社成田客室部配属(国際線客室乗務員)、日本外国語専門学校専任講師を経て、2025年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

ホスピタリティ教育により地域と産業の未来を支えます。

研究・活動の内容

近年、観光業界は急速なグローバル化や多様化により、単なるサービス提供にとどまらない「個々のニーズに寄り添った、心のこもったおもてなし」が一層求められています。そのため、ホスピタリティの本質を理解し、実践できる人材の育成が重要な課題となっています。

また、人口減少や高齢化が急速に進んでいる日本において、インバウンドが今後の経済を支える重要な要素となると言えます。よって、観光業の持続的発展を目指すと同時に、人と人との関係性を基盤とするホスピタリティの質を上げていくことは、これからの日本にとって不可欠であるとも考え

られます。

このような時代の変化に対応するため、観光産業における人材育成の一環として、ホスピタリティ教育のアプローチに焦点を当て、現状と課題、さらには今後の改善策について検討します。ホスピタリティ産業及び観光産業の一つであるエアラインのサービスマネジメントを比較対象とし、観光従事者が現場で求められる具体的なホスピタリティスキルについて把握し、今後のホスピタリティ教育における有効なアプローチを探究します。

ホテルのハード・ソフト・ヒューマン

富樫 文予

TOGASHI, Fumiyo

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

サービスとホスピタリティ 日本のおもてなし、旅館とホテル
ホテルのブランディング 日本のホテル史と帝国ホテル
ホテルの組織と人材育成

相談に応じられる関連分野

- 言葉遣い・電話応対に関する指導
- ホテルのおもてなし、人材育成に関する事項

プロフィール

1985年(株)帝国ホテル入社、2015年 ザ・クレストホテル柏総支配人室長、2018年より現職。日本フードサービス学会、日本国際観光学会、日本宿泊産業マネジメント技能協会所属。

産業界・地域へのメッセージ

大学もホテルも、地域とともに存在し発展します。

研究・活動の内容

サービスという概念しか知らなかった時代から、日本のサービス産業はホスピタリティ産業へと進化を遂げています。「おもてなし大国」と言われるようになって久しいわが国ですが、多くの留学生がそのおもてなしを学びに来日しています。世の中の様々な仕事がAIに取って代わられると言われる時代、労働集約型産業でもあるホテル業はいかなる進化を辿っていくのでしょうか。観光立国を目指し2024年の訪日外国人は過去最高の3,687万人を数え、今やオーバーツーリズムが日本各地で問題となる程の活況を呈しています。観光業は日本の基幹産業として、テクノロジーと人の創造力の共存により

新たな発展を遂げるべく「おもてなし大国日本」の真価が問われることになるでしょう。

ホスピタリティ産業の代表とも称されるホテルですが、良いホテルの条件として「ハード」「ソフト」「ヒューマン」の3つが重要と言われています。「ハード」とは建物や備品、「ソフト」はサービスの仕組みや組織、「ヒューマン」は気くばりやモチベーションなどです。緻密に組み立てられたホテルの「組織」、それらの仕事に携わる「人材の育成」の考察を軸として、重要な3要素が高品位にバランスよく保たれることで発揮される日本ならではの「おもてなし」が研究テーマです。

産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する

徳田 行延

TOKUDA, Koen

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

就業力育成の協働学修型体験授業

産学官連携による地域貢献活動

Art & Social Engagement

相談に応じられる関連分野

- 産学官連携によるアート&ソーシャル・イベントの実施
- 【実績】狭山市届出挙式（狭山市主催）その他
- サヤマdeシネマ（狭山市共催、東京国際映画祭後援）

プロフィール

明治大学大学院商学研究科博士後期課程学位取得満期退学。西武文理大学元学長（2016年～2018年）。文部科学省大学生の就業力育成支援事業「経験値からのサービス産業就業力育成」（2011年～2013年）取組責任者。

産業界・地域へのメッセージ

アート&ソーシャル・エンゲージメントで未来を創る。

研究・活動の内容

21世紀はサービス（経験価値）の時代です。20世紀の所有に基づく交換経済も、効率性や合理性もすでに新しい形に変化してきています。ひとりの天才が社会をリードする時代でもなさそうです。21世紀はすべての人の思いや感動がそれぞれにクリエイティブ志向を持っています。多様な人たちとの協働により生まれる共感強く説得力のあるものとなり、社会は人々の創造性によってつくられていくアート作品になっていきます。こうした時代に対応するために、産学官によるプロジェクトにより新しいサービス価値の創造を行い、社会参加におけるホスピタリティの役割を探索しています。

学生主催による産学官イベント



「サヤマdeシネマ」狭山市共催
東京国際映画祭後援



「届け出挙式」狭山市主催
西武文理大学、ゼクシィ協力

産業連関表を用いた地域経済の課題解決

中谷 勇介

NAKATANI, Yusuke

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

産業連関表 観光資源

地域経済

経済効果

相談に応じられる関連分野

- 小地域産業連関表の作成
- イベントや政策などによる経済効果の分析

プロフィール

一橋大学大学院経済学研究科後期博士課程単修得退学。修士（経済学）・一橋大学経済研究所非常勤研究員、神奈川大学経済学部特任講師等を経て2012年本学に着任。2022年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

経済学で地域の課題解決をサポートします。

研究・活動の内容

現在日本では、少子高齢化による人口減少、地方経済の衰退、国家財政の赤字という大きな危機に直面しています。埼玉県は東京都という大都市に隣接しているという点でアドバンテージがあり、地方都市が抱える問題はまだまだ顕在化しているとはいえません。とはいえ、人口減少と高齢化の進展は今後徐々に地域経済へと影響を与えていきます。そこで重要になるのが、地域の現状を把握した上で地域の将来像をデザインし、それを実行していくという「地域力」です。この地域力をサポートしていく経済学のツールとなるのが産業連関分析です。産業連関分析は産業連関表を使った経

済分析であり、産業連関表とはレオンチェフが考案した産業間や消費者と産業とのモノやサービスの取引関係（流れ）を表す統計表です。これを市町村単位あるいは隣接する地域単位で作成し、それに基づいて地域経済を分析していくのが最近の私の研究です。市町村単位などの小地域をベースにした産業連関表を用いることで域内の経済構造が明らかになり、将来予測や経済波及効果を分析することが可能になります。2020年から（一社）埼玉県物産観光協会様より「埼玉県における観光の経済効果」に関する研究を委託され経済波及効果（金額、雇用効果、税収効果）の推計を行っています。

観光マーケティング、ライフスタイルと旅行者行動

波潟 郁代

NAMIGATA, Ikuyo

サービス経営学部 サービス経営学科 教授

キーワード

消費者行動

世代研究・Z世代

インバウンド・アウトバウンド

新型コロナと旅行・観光への影響

観光マーケティング

相談に応じられる関連分野

- 観光関連の意識調査
- 広報・メディアリレーションズ
- 観光ビジョン

プロフィール

新潟大学教育学部卒業。(株)日本交通公社(JTB)入社。支店長、本社広報室長を経て2012年JTB総合研究所の設立に携わる。同社執行役員企画調査部長から23年4月に現職。

産業界・地域へのメッセージ

観光を通じた地域活性化、ウェルビーイングな社会づくりを目指します。

研究・活動の内容

今年2023年4月に着任しました。前職のJTB研究総合所では、社会の変化が生活者の価値観や行動、旅行にもたらす影響をテーマに研究を重ねてきました。JTBが50年以上続けている「旅行動向見通し」にも15年間携わり、それぞれの調査研究はツーリズム全体の活性化にむけ公表してきました。

旅行・観光のあり方やスタイルは、社会構造の変化や技術革新、ライフスタイルや価値観の多様化など多くの要因が重なりあい、常に変化し続けています。観光関係者はその変化を察知し、旅行者の志向を把握しながら観光振興策を考え、

商品やサービスを提供しています。

新型コロナウイルスのパンデミックは、暮らしや経済活動に多大な影響を与えた一方で、新しい行動や習慣、感染防止の習慣、リモートワークやオンライン会議を日常生活に広げ、暮らし方、働き方に変化をもたらしました。ここ10数年で観光振興の主体は中央から旅行者と接点を持つ地域へとシフトした一方で、構造的な社会課題が顕在化しました。様々な事象やデータをもとに、ライフスタイルや観光のあり方はどこに向かうのか変化の芽と諸課題の解決に向けた研究を続けていきます。

地域資源を活用した地域振興に関する研究

望月 政志

MOCHIZUKI, Masashi

サービス経営学部 サービス経営学科 准教授

キーワード

地域資源

フードビジネス

地域振興

産地ブランド

農林水産業

相談に応じられる関連分野

- 農林水産業分野の経営・経済問題
- 「食」や「観光」に関するアンケート調査
- 地域資源を活用した地域振興

プロフィール

京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。博士(農学)。専門社会調査士。京都府農林水産技術センター任期付研究員、一橋大学経済研究所専任講師等を経て現職。

産業界・地域へのメッセージ

地域資源の価値創出に貢献できればと思います。

研究・活動の内容

近年、少子高齢化の進行、過疎化問題、経済環境等の変化による地域間格差の拡大など、地方が置かれている状況は厳しく、多彩な地域資源を生かした新しい商品・産業の創出および既存産業の活性化は地域振興を図るうえで重要な課題となっています。そこで、農林水産物をはじめとする「食」や「観光」などに関連する地域資源を活用した地域振興をテーマに、特産品の価格形成要因や地域資源の持続的利用、農・漁業の経営問題、体験型ツーリズム等に関する経営・経済学的研究を行っています。

また、外国での日本産サーモンと他国産サーモンのブラン

ド力の違いや水産物に対する外国人の購買行動を明らかにする研究、あるいはシンガポールにおける日本食レストランの需要とその決定要因を明らかにする研究など、海外における日本固有の地域資源(日本産水産物や日本食文化)に対する需要や購買行動に関する研究も行ってきました。

最近では研究の幅を広げ、これまで統計データの不足からあまり研究されてこなかった第二次世界大戦前後の日本の家計消費に関する研究にも携わっています。

子育て・ 障害者支援

精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について

石川 幸代

ISHIKAWA, Yukiyo

看護学部 看護学科 教授

キーワード

精神保健

精神障がいをもつ人の子ども

精神看護

精神障がいをもつ人の子育て支援

精神障がいをもつ人

相談に応じられる関連分野

- 精神障がいをもつ人の地域生活支援について
- 精神障がいをもつ人の子育て支援について

プロフィール

札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師、保健師。精神科病院にて看護師を経た後、大学にて看護学教育に従事。2019年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

全ての人が自分らしく生活できる社会を目指しましょう。

研究・活動の内容

これまでに精神科病院内外にて、精神障がいをもつ人が地域で生活するための支援に携わってきました。精神障がいをもつ人が地域の中で一生活者として暮らすためには、本人、家族の努力はもとより、それを支える力が必要です。それは病院からの医療支援のみではなく、地域の保健、福祉の支援、そしてそれらの連携が不可欠です。多くの人の理解と協力が必要となります。精神障がいをもつ人の頑張り、努力が理解され、一緒に協働できる社会を身近なところから目指していきたいと考えております。

また精神疾患の多くは慢性疾患です。病院での治療のみで

完結するのではなく、長くその病気とうまく付き合いながら生活していかなければなりません。近年は向精神薬の改良もあって、以前よりも多くの精神障がいをもつ人たちが子どもを生み育てるようになっております。病気を抱え、子育てをすることがとても困難であることは、誰もが予測できることですが、十分な支援を受けられているとはいえないのが現状です。これらの精神障がいをもちながら子育てを行っている人たちへの支援、そしてその子どもたちへの支援についても包括的に考えていきたいと思っております。

精神面の困難に直面した人への対話的支援

笠井 翔太

KASAI, Shota

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

オープンダイアログ

語り

リフレクティング

対話実践

ナラティブ・アプローチ

相談に応じられる関連分野

- 精神面の困難に直面した人との対話的支援に関する相談
- 精神看護学実習に関する実習指導への助言

プロフィール

浜松医科大学大学院医学系研究科修了、修士（看護学）。看護師、保健師。精神科病棟勤務後、2009年より現職。日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、ODNJP等に所属。

産業界・地域へのメッセージ

精神面の困難に直面した人たちの一人ひとりの声が尊重され、地域で生活できるよう応援しています。

研究・活動の内容

オープンダイアログの研究に取り組んでいます。オープンダイアログとは、フィンランド発祥の“開かれた対話”による精神科医療における治療法のことです。精神的な不調を抱える人を中心に、その人を支えている家族や関係者、医師や看護師などの専門家が集まり、分け隔てなく全員で対話します。オープンダイアログは「その人のいないところで、その人のことを決めない」という哲学が大切にされています。精神疾患、精神症状があるということだけで言いたいことを言える機会を失い、薬によって抑えられ、権力のある人にその人の人生を決められてきた歴史があります。言いたいこと

を伝える機会をもてず、自分の生きたい人生を選択できない環境を作っていくことは、本当の支援とは言えないと思います。現在、従来の精神科医療が見直されつつあり、オープンダイアログの対話的なアプローチは日本でも注目されてきており、対話実践が各地で広がりつつあります。精神的な不調を抱える人たちやその周囲の人たち、一人ひとりの声が大切にされ、その人自身の人生をその人自身が選択できる社会を目指して、自身の研究活動が、日本の文脈に根ざした、日本版オープンダイアログの定着に向けての一助になればと考えております。

生涯を通じた女性の健康・こどもの食育に関する研究

坂本 めぐみ

SAKAMOTO, Megumi

看護学部 看護学科 教授

キーワード

パパ・ママの育児支援・食育

生涯を通じた女性の健康

中山間地域の支援

ネット・ゲームとの付き合い方

こどもの安全教育・健康教育

相談に応じられる関連分野

- 子育て支援や地域活性化
- 学校や地域におけるこどもと親の健康教育
- 職員研修等における男女共同参画

プロフィール

助産師、看護師。女子栄養大学大学院栄養学研究科修了、博士（保健学）埼玉県立大学、防衛医科大学校、公立小松大学を経て現職。主著：健康と医療福祉のための栄養学（医歯薬出版）他

産業界・地域へのメッセージ

地域活性化のお役に立てよう頑張ります！

研究・活動の内容

生涯を通じた女性の健康と、こどもの食育に関する研究を行っています。また少子高齢化の進む地域、特に中山間地域における妊産婦の生活習慣や栄養、こどもの栄養に関する調査研究を行っています。その他にも埼玉県内の児童生徒の皆さんがネット・ゲームと上手に付き合う方法について調査研究を行っています。

さらに、これらの調査結果を生かし地域で様々な活動を行っています。大人対象の活動としては、自治体職員の男女共同参画や性的マイノリティに関する研修会や健康増進に関する研修会の講師を、保育所や小中学校の先生方への食育の講演

会を行っています。また埼玉県立総合教育センターと協働で学校の先生方にネット・ゲームに関するe-ラーニング研修教材を作成し、ご活用いただいています。

こども対象の活動としては、食物アレルギーをお持ちのお子さんへのメニューや離乳食メニューの開発、親子食育教室などを行っています。小・中・高・特別支援校では、それぞれの児童生徒さんのニーズに合った、食育・命の安全教育・性教育や、ネット・ゲームを安全に使うための親子への教育を行っています。

妊娠～出産～育児期の母親の心理

櫻井 薫

SAKURAI, Kaoru

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

母親の心理 周産期～育児期のメンタルヘルス

産後うつ

描画

相談に応じられる関連分野

- 周産期～育児期のメンタルヘルス
- 描画研究 ● 子育て支援

プロフィール

千葉大学看護学部卒、埼玉県立衛生短期大学助産専攻科、日本大学文学研究科心理学専攻博士前期課程修了、博士後期課程満期退学、修士（心理学）。看護師・助産師・保健師・臨床心理士。大学病院産科、助産院、不妊治療クリニック、開業助産師、看護学校・看護大学教員を経て、2025年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

母親の心理支援のありかたを地域とともに考えたい

研究・活動の内容

母親の心理的問題において、「育てにくさ」という育児困難感を背景とした不安や抑うつが問題となっています。そのような心理面の問題への支援としてスクリーニングや支援の仕方など模索されていますが、これらの問題は捉えにくい面があります。また、自身の状態を自覚できていないことや、うまく言語化できない人も多いと言われており、支援の困難さにもつながっていると考えられます。こういった傾向は妊娠してからはじめて出現するのではなく、学生の年代においてもみられる傾向だと考えています。そのため、学生の心理的傾向を考えながらかわり方を工夫していくことは周産期

～育児期の母親とのかかわり方につながると考えています。このような背景から、捉えにくい心理を把握する一つの方法として描画の研究をしています。描画には当事者が自覚できていない内界の心理が投影されるとされており、描かれたものの大きさや位置、線の描き方などを指標に分析されます。描画を用いた研究からみえてくる母親の心理をふまえ、支援のありかたを現場や地域と連携しながら考えていきたいと思っています。

障がい児・者領域、高齢者分野も含めた権利擁護について

藤田 則貴

FUJITA, Noritaka

サービス経営学部 健康福祉マネジメント学科 専任講師

キーワード

権利擁護 日韓比較

障がい児・者福祉

多職種連携

相談に応じられる関連分野

- 障がい児・者及び高齢者に関する権利擁護について
- 日本・韓国における在日コリアン高齢者、在韓日本人妻高齢者への支援について

プロフィール

養護学校教諭を経て、淑徳大学大学院、東京経済大学大学院修士課程修了、修士（社会福祉学）、修士（法学）、その後、認知症高齢者グループホームの立ち上げに携わる。

産業界・地域へのメッセージ

日本だけではなく、韓国の福祉に関する権利擁護にも興味・関心を持って研究しています。

研究・活動の内容

幼少期から喘息を患っており、そのことが契機となり、教職課程に進みました。中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）、養護学校教諭一種免許状を取得し、養護学校の教諭として3年間勤務したのち、自身の実力のなさを実感し、学び直しをしたことが、現在の私の基礎となっています。

実際に認知症高齢者グループホームの立ち上げに携わることで、できたことも私の人生を変える契機となりました。

養護学校の教員や認知症高齢者グループホームの立ち上げに携わることで、権利擁護に興味・関心を持つようになりました。

一方において、第2次世界大戦前後に日本から韓国に渡った日本人女性、私は、在韓日本人妻高齢者と呼んでいます。その在韓日本人妻高齢者の現状を韓国において知ることとなりました。そのことが契機となり、日本においても、第2次世界大戦前後に朝鮮から来日した人々である在日韓国人・在日朝鮮人の研究、1980年以降に来日した、いわゆる「ニューカマー（Newcomer）」の人々にも興味・関心を持って研究しています。

大切なことは、研究テーマとしている障がい児・者、高齢者も含めた人々が、安心して暮らすことのできる社会とは、どのような社会であるのかを模索しながら生活しています。

子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康

茂手木 明美

MOTEGI, Akemi

看護学部 看護学科 教授

キーワード

子どもの健康と生活習慣 発達障害

子どもの事故防止

子どもの虐待防止と家族支援

相談に応じられる関連分野

- 子どもの生活習慣と子育て、病気への対応
- 子どもの成長発達と事故防止
- 子育てをめぐる家族支援

プロフィール

山梨大学大学院医学工学総合教育部博士課程人間環境医工学修了、医科学博士（山梨大学）、看護学修士（山梨医科大学）。看護師、保育士。

産業界・地域へのメッセージ

子どもが健やかに育つための活動に取り組んでいます。

研究・活動の内容

育児の現状からみた家族の悩みや課題、職場環境の社会的理解のあり方に対する調査研究を行っています。その研究を基盤とし、子育て期の家族を支えるシステムづくりに関する検討を重ねています。少子化が進み、核家族がさらに増加していくことが予測される今、子育て環境にはさまざまな課題が生じています。子どもとのかかわり・育て方に迷うご家族に対する支援を通して、ご家族へのサポート、加えて児童虐待防止のためにできることについて検討しています。

次に、人の生涯にわたる健康と生活習慣には密接な関係があることから、生活リズム、睡眠、食事、運動など基本的な

生活習慣を確立していく子ども時代の重要性について調べています。近年、我が国のライフスタイルは変容し、大人だけでなく、子どもの生活も大きく変化してきています。子どもが心身ともに健康に成長発達していくことに寄与できるよう、医療・看護のみならず、保育や学校教育の先生方と連携し、子どもの生活に関する研究に取り組んでいます。

また、最近では発達障害やそのグレーゾーンとも考えられるお子さんに関する相談等が増えてきました。そのため、発達障害について周囲や地域の皆さんに正しく理解していただけるための取り組みやご家族への支援についても検討しています。

女性と健康、産後ケア・子育て支援に関する研究

渡部 加恵

WATANABE, Kae

看護学部 看護学科 専任講師

キーワード

母性 健康心理

健康教育

産後ケア

相談に応じられる関連分野

- 子育て、母乳育児に関する相談
- 更年期に関する相談

プロフィール

慶応義塾看護短期大学（現慶応義塾大学）卒、東邦大学医療短期大学母子看護学専攻科卒（現東邦大学）、桜美林大学大学院国際学部人間科学専攻健康心理学専修終了（健康心理学修士）。助産師、助産師教育、地域母子保健、本学非常勤を経て2025年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

生き生きと安心して暮らせるような地域環境づくりに取り組んでいます。

研究・活動の内容

臨床や地域母子保健では、親子に関わる地域と環境の大切さを実感しながら対象を尊重した援助をこころがけて実践しておりました。またZ世代の女性に対する月経のプログラムを作成した研究や、月経がポジティブなイメージにかわり、より快適に過ごすためのワークを行いました。

参加した方々は、悩みや体験をグループで話すことで、「自分ひとりじゃないんだ」と気づき、対処ができるということがわかりました。さらに対象や地域を広げて少子高齢社会に対応する活動を目指しています。

健康づくり

サービス付き高齢者向け住宅入居者の口腔機能の支援

阿部 祐美子

ABE, Yumiko

看護学部 看護学科 助教

キーワード

サービス付き高齢者向け住宅

生活満足度

口腔機能・嚥下機能

多職種連携

相談に応じられる関連分野

- 高齢者の口腔機能や嚥下機能低下予防に関する事項
- リハビリテーション患者の看護と家族に関わる事項

プロフィール

桜美林大学大学院老年学研究科老年学専攻修士課程修了、修士（老年学）。看護師、大学にて看護教員を経て、2024年より現職。日本老年看護学会・日本応用老年学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

住み慣れた地域で高齢者が生き生きとした日常生活を送るため支援を実践していきます。

研究・活動の内容

地域包括ケアシステムの構築により、高齢期の住まいのあり方の支援が課題となっています。高齢者の生活満足度を高める住まいのあり方の支援として、ここ数年増加傾向にあるサービス付き高齢者向け住宅の生活満足度への口腔関連因子の影響に着目した研究を行っています。また、研究を深めていくために、入居高齢者の低栄養や口腔機能低下の予防および改善に向けた支援モデルの構築を検討しています。

健康を維持し、食生活を楽しむためには、口腔機能が極めて重要です。口腔機能の維持は、低栄養を予防します。

高齢者の場合、低栄養による筋力低下や運動機能低下から不活発な生活となる可能性があります。また、口腔機能は、発音や発声など会話にも影響します。食事や会話への支障から社会参加の機会が減少することや心身機能の低下に至ることが報告されています。

サービス付き高齢者向け住宅は、住み替えをした高齢者の住まいであることから、生き生きとした生活を送るうえでのハードウェアに付随するサービスとしての食生活や口腔機能に着目した健康支援のあり方を探求したいと考えています。

高齢者の健康とそれに関わる保健師の心身健康について

石井 可奈

ISHII, Kana

看護学部 看護学科 助教

キーワード

保健師	心身健康科学
高齢者	健康観
地域づくり	

相談に応じられる関連分野

- 地域づくり
- 自主グループ支援、活動について
- 地域包括支援センターに関わることについて

プロフィール

大学院修士課程を修了（修士 心身健康科学）。
病棟看護師を経て、行政保健師として主に地域包括支援センターで地域づくり、高齢者支援を経験し、現職に至る。

産業界・地域へのメッセージ

地域の持つ力はとても素晴らしいと感じています。自分の力を発揮できる地域を目指して。

研究・活動の内容

人生100年時代といわれている現代では、地域に住む人の力がとても大切だと考えています。地域で盛んになっている地域サロンや地区活動と保健師活動を通して、高齢者の健康増進はもちろんのこと、保健師自身の心身の健康増進にも大きく影響があると感じたことが研究を始めるきっかけでした。

日々、変化している現代とともに心身健康に生きていくためにも、“自分が考える健康観”は大切です。健康といっても「元気」だけではなく、様々な要因や状態があることと考えます。その健康観を活かし、健康づくりに取

り組むことができれば、住みやすい地域づくりにもつながることと思います。地域の歴史や文化、地域に暮らす人同士が交流することで、健康に大きな影響を与えている場合もあります。その人らしい生活や暮らしをしていくためにも、個人が持つ力だけでなく、地域が発揮できる力も活かした支援ができるよう、保健師として、地域住民と一緒に考え、楽しくコミュニケーションを深めていくことを通し、効果的な地域づくりなどを考えていくとともに、地域への貢献をしていきたいと思っています。

労働者や地域住民の健康維持増進に向けて

伊藤 千春

ITO, Chiharu

看護学部 看護学科 准教授

キーワード

労働者	セルフケア
ストレスマネジメント	ヘルスリテラシー
レジリエンス	

相談に応じられる関連分野

- 地域住民への健康講話
- 企業従業員への健康講話

プロフィール

臨床経験、行政保健師、産業保健師を経て現職に至る。
学位：ヒューマン・ケア科学博士（筑波大学）
資格：看護師免許、保健師免許、養護教諭2種免許
所属学会：日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会

産業界・地域へのメッセージ

地域貢献活動として講演を行い住民の健康増進を支援していきたい。

研究・活動の内容

労働者のストレスやレジリエンス、地域住民のヘルスリテラシーに関する研究を行っています。日本はEU諸国に比べて地域活動への参加が困難であると回答する割合が高いことが報告されています。令和5年の国民健康・栄養調査における地域社会のつながりの状況をみると、居住する地域の人々が「お互いに助け合っている」と思う者の割合は41.5%、「地域の人々とのつながりは強い」と思う者の割合は31.6%という結果であり、地域への愛着や地域の資源を活用した健康づくりが課題といえます。健康づくりを推進していく上では、健康情報を入手し、理解し、評価し活用するための能力

であるヘルスリテラシーを高めることも必要といえます。近年では、つながりの場への参加を通し、学び合いが生まれることでヘルスリテラシーが高まることが示唆されており、社会参加がヘルスリテラシーや地域への愛着に与える影響を明らかにすることに取り組んでいます。今後も労働者のストレスマネジメント支援や地域住民の健康づくりの一助となる研究を継続していきたいと考えています。

人々の健康を支える健康診査、保健指導について

霜山 薫

SHIMOYAMA, Kaori

看護学部 看護学科 講師

キーワード

公衆衛生看護

健康診査

保健指導

相談に応じられる関連分野

- 健康診査、保健指導の評価

プロフィール

看護大学を卒業後、行政保健師・産業保健師を経験し埼玉県立大学大学院を修了。修士(看護学)。看護系大学勤務を経て2023年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

時にはご自身の体についてチェックする機会を。

研究・活動の内容

健康診査は自身の健康状態を知る、自覚症状の有無にかかわらず病気を発見する、生活習慣を振り返る契機とするなどの役割があります。集団的にはそれらのデータを用いて地域の健康づくりにも役立てられつつあります。

特定健康診査においては受診するだけではなく、好ましい生活習慣を身につけそれを維持することや生活習慣の改善をも目指しています。なかでも特定保健指導に携わる保健師は生活習慣病や生活習慣改善に必要な知識はもちろん、対象者自身が行動変容できそうな目標と一緒に立て、実施し続けられるようサポートしています。

現在は、良くも悪くも健康に関する情報があふれており、それらは容易に調べることも手に入れることもできる状況にありますが、知識と自身に合った行動を結び付ける、食生活・運動習慣等を維持するのは容易なことではないと実感している方も多いのではないのでしょうか？

このような、知識としては理解しても行動に移せない状況に対し保健指導がどのように役立つかなどを模索しています。

社会における将来を見据えた専門職（看護師）の活用

高橋 幸子

TAKAHASHI, Sachiko

看護学部 看護学科 教授

キーワード

看護政策

クリティカルケア

自治体危機管理

SDGs

災害看護

相談に応じられる関連分野

- 政策過程
- 救急医療に関する実践・制度
- 看護職を活かしたキャリア形成

プロフィール

看護師と臨床で働く中で、政策に興味を持ち、明治大学公共政策学修士・明治大学政治学修士取得、明治大学政治学博士で学ぶ。帝京大学、目白大学を経て2023年より現職。

産業界・地域へのメッセージ

人間にも地球にも優しい幅広い分野で活躍できる看護師の育成を。

研究・活動の内容

政策と聞いても身近に感じずまた敷居の高いものとして、興味をもてない人が多いと思います。しかし、生活は様々な政策をもとにして成り立っています。医療における臨床や教育の現場は、一生懸命働いているがゆえに不満を持っている人がいます。「常に人が足りない」「これは専門職の仕事？」など……。私は政策を活用して人々の健康に関する貢献や専門職が自らの能力を発揮できることに目を向けています。国の政策にたよらず、基礎自治体が看護師を専門職として活用できる政策に関する研究を行っています。また、災害時などの危機管理体制に看護専門職を取

り入れるシステムを作ることも重要な課題です。看護職に従事する人達が看護政策に興味を持ち、自ら発信できることを望んでいます。

最近ではSDGsと看護教育に関しても、研究を進めています。政策は社会状況を察知しながら考えていくことが必要です。世界が取り組んでいるSDGsは看護教育で既に行われている内容も多くあります。そのことを教員自ら意識し国が取り組んでいる政策に加担していることを自覚することも皆さんが政策を身近に感じる1歩だと思って活動しています。

産学官連携の推進

西武文理大学は研究機関として、共同研究や研究指導等を通じて知見を提供する取組を行っています。
また教育機関として、教育プログラムの開発やPBL（問題解決型学習）の実施において産業界や行政のご協力をいただくなど、多彩な産学官連携活動を行っています。

1. 締結している協定

- 平成 19 年 産学連携協定：埼玉りそな銀行
- 平成 19 年 産学連携協定：武蔵野銀行
- 平成 23 年 産学連携協定：飯能信用金庫
- 平成 23 年 連携基本協定：狭山市
- 令和 元年 連携基本協定：株式会社ムーミン物語
- 令和 元年 連携基本協定：長野県飯山市・一般社団法人信州いいやま観光局・株式会社フジすまいるファーム
- 令和 3 年 包括連携協定：一般社団法人埼玉県物産観光協会
- 令和 5 年 包括連携協定：入間市
- 令和 5 年 連携基本協定：埼玉県秩父地域振興センター

2. 連携活動事例

- 平成27年度 飯能信用金庫「寄付講座」導入
(取組) サービス経営学部開講科目「アントレプレナーシップ」他
- 平成29年度 狭山市・健康長寿埼玉モデル「おりびい健康マイレージ事業」
～令和元年度 (取組) 看護学部教員による健康講座や身体測定会の実施及び効果検証への参画
- 平成30年度 埼玉県看護協会第三支部「看護研究の実際」事業
(取組) 看護学部教員による講義・演習「看護研究の実際・応用編」の実施
- 平成30年度～ 狭山市・NPO法人さやま協働ネット「さやま市民大学」
(取組) 西武文理大学連携講座として、健康をテーマとした講座の監修・合同授業等
- 令和元年度 総合演習I(産学連携PBL)授業
～令和4年度 (取組) 地元企業や行政などから提示された課題に対する学生提案型の授業を実施
- 令和元年度 狭山市内中小企業へのアンケート
(取組) 産学官連携をテーマに狭山市内中小企業を対象としたアンケート調査を
狭山市及び狭山商工会議所の協力により実施
- 令和2年度 サービスラーニング(地域イベント・ボランティア)授業
～令和3年度 (取組) 前後期を通じ地域の商店街の活性化策など複数のプロジェクトに分かれて検討
- 令和2年度 サービスイノベーションフォーラム
「地域における『社会システム産業』を考える～デジタルを活用しての狭山チャレンジ～」
(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施
- 令和3年度 サービスイノベーションフォーラム「中小企業にとってのSDGs(持続可能な開発目標)の意義」
(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施
- 令和4年度 サービスイノベーションフォーラム「物産観光による地域振興」
(取組) 一般社団法人埼玉県物産観光協会の共催により実施
- 令和5年度 狭山市内中小企業へのアンケート
(取組) SDGsと脱炭素(カーボンニュートラル)をテーマに狭山市との共同により狭山商工会議所の会
員を対象にしたアンケート調査を実施
サービスイノベーションセミナー「SDGsや脱炭素(カーボンニュートラル)の取り組みをどう経営に取り入
れていくか」
(取組) 狭山市との共催により実施
- 令和6年度 狭山市制施行70周年 狭山市の未来に向けたおもてなしイベント「さやま70さい祭」を開催
(取組) 本学及び東京家政大学の共同主催により、両大学の特色を活かしたワークショップと動画
にプロジェクションマッピングを組み合わせた映像上映のイベントを開催

3. 文部科学省採択事業

平成19-21年度 研究拠点形成費等補助金

(産学連携による実践型人材育成事業—サービス・イノベーション人材—)

平成21-23年度 大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)

平成22-23年度 大学生の就業力育成支援事業

平成24-27年度 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

共同研究等の推進

1. 共同研究

民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。民間等から研究者及び研究経費等を受け入れ、本学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について共同・分担して行う研究です。

共同研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

2. 受託研究

大学の教職員が外部からの委託を受けて、契約に基づき研究を行いその成果を委託者に報告する制度です。研究に必要な経費は委託者に負担していただきます。受託研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

3. 奨学寄附金

本学において、民間企業、団体、個人等から学術研究に要する経費等、教育研究の奨励を目的とする経費に充てるものとして受入れる寄附金です。

お問い合わせ先

本誌掲載の大学教職員に興味関心のある方、
大学連携にご興味のある方は下記までお気軽にお問い合わせください。

西武文理大学 総務課(研究支援担当)

mail : soumu@bunri-c.ac.jp

TEL : 04-2954-7575

FAX : 04-2954-7511

H P : <https://www.bunri-c.ac.jp/about/research-funds.html>

西武文理大学 サービスイノベーションセンター

mail : sic@bunri-c.ac.jp

TEL・FAX : 04-2909-2229

INDEX

研究シーズ名前検索

あ

浅石 梨沙	あさいしりさ	10
阿部 祐美子	あべ ゆみこ	35

い

飯室 淳子	いいむろ じゅんこ	14
石井 可奈	いしい かな	36
石川 幸代	いしかわ ゆきよ	31
伊藤 千春	いとう ちはる	36
伊東 林蔵	いとう りんぞう	27
井上 寛隆	いのうえ ひろたか	15

か

影山 優子	かげやま ゆうこ	15
笠井 翔太	かさい しょうた	32
加藤 三彦	かとう みつひこ	23
金澤 良昭	かなざわ よしあき	11
神庭 純子	かみにわ じゅんこ	16
甘泉 瑞応	かんせん みずお	11
神田 八穂	かんだ やほ	28
神野 雄	かんの ゆう	24

こ

小松 妙子	こまつ たえこ	16
-------	---------	----

さ

坂田 徳生	さかた とくせい	17
坂本 めぐみ	さかもと めぐみ	32
祥雲 直樹	さくも なおき	17
櫻井 薫	さくらい かおる	33
佐藤 直子	さとう なおこ	18

し

渋谷 寛美	しぶや ひろみ	18
霜山 薫	しもやま かおり	37

す

鈴木 浩美	すずき ひろみ	19
鈴木 政浩	すずき まさひろ	24

せ

関根 みぎわ	せきね みぎわ	19
瀬沼 文彰	せぬま ふみあき	25

た

高橋 幸子	たかはし さちこ	37
-------	----------	----

ち

張 森	ちょう しん	12
-----	--------	----

つ

土屋 進一	つちや しんいち	25
-------	----------	----

と

富樫 文予	とがし ふみよ	28
徳田 行延	とくだ こうえん	29

な

中谷 勇介	なかに ゆうすけ	29
波湯 郁代	なみがた いくよ	30

は

八田 史絵	はった ふみえ	20
原田 瞳	はらだ ひとみ	20

ひ

日野 徳子	ひの のりこ	21
-------	--------	----

ふ

藤田 則貴	ふじた のりたか	33
藤野 洋	ふじの ひろし	12
船山 貴光	ふなやまたかみつ	13

ほ

保坂 嘉成	ほさか よしなり	21
-------	----------	----

ま

牧野 充	まきの みつる	26
------	---------	----

み

宮島 健次	みやじま けんじ	26
-------	----------	----

も

望月 政志	もちづき まさし	30
茂手木 明美	もてぎ あけみ	34
森川 奈緒美	もりかわ なおみ	22

や

大和 広美	やまと ひろみ	22
-------	---------	----

り

李 楊	りよう	13
-----	-----	----

わ

渡部 加恵	わたなべ かえ	34
-------	---------	----

西武文理大学 研究シーズ集2025

2025年8月発行

発 行：西武文理大学

連絡先：〒350-1336

埼玉県狭山市柏原新田311-1

西武文理大学事務局

TEL：04-2954-7575

FAX：04-2954-7511

E-mail：soumu@bunri-c.ac.jp

URL：https://www.bunri-c.ac.jp/univ/

